

初等科地理

下

文部省



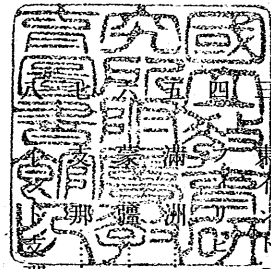
初等科地理 下

文部省

263
文部省
18
4
2
圖書

目録

一 大東亞	一
二 昭南島とマライ半島	十
三 東洋の島々	十六
四 東南アジアの島々	三十一
五 南洋の島々	三十七
六 西インド洋	五十三
七 インドとインド洋	五十七
八 西アジアと中アジア	八十五
九 シベリヤ	九十九
十 太平洋とその島々	百十二
十一	百十九
十二	百二十六



一 大東亞

出づる國日本の東海岸に打ち寄せる波は、そのまま續いて、は
てしもない太平洋を越え、はるかにアメリカの岸邊を洗つてゐるま



東京中心の大東亞圖

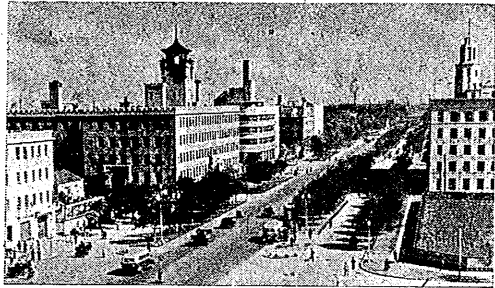
す。同じ波が、北は霧のアリュートシヤン
に連なり、南は熱帯の海を越えて南
極に達し、更にインド洋の荒波にも
つながつてゐるのです。西にはま
た、日本海・支那海など、ひとまたぎの
内海をへだてて、高山・大平原・大沙漠
を抱く廣大なアジア大陸が横たは
つてゐます。



日本は、この大海洋と大陸とを結ぶ位置にあつて、一見小さな島國のやうに思はれますが、よく見ると、北東から南西へかけ、あたかもみすまるの玉のやうにつながり、いかにも大八洲の名にふさはしい、頼もしい姿をしてゐます。北へも南へも、西へも東へも、ぐんぐんのびて行く力にみちあふれた姿をしてゐます。

もともと、わが國は神のお生みになつた尊い神國で、遠い昔から開けて來たばかりでなく、今日も、こののちも、天地とともにきはまりなく、榮えて行く國がらであります。これまで、外國のあなどりを受けたことは一度もありません。遠い昔はいふまでもなく、近くは日清、日露の兩戰役によつて、國威を海外に輝かし、更に滿洲事變、支那事變から、大東亞戰爭が起るに及んで、いよいよその偉大な力を全世界に知らせることができました。

世界にためしのないりつぱな國がらであり、すぐれた國の姿を

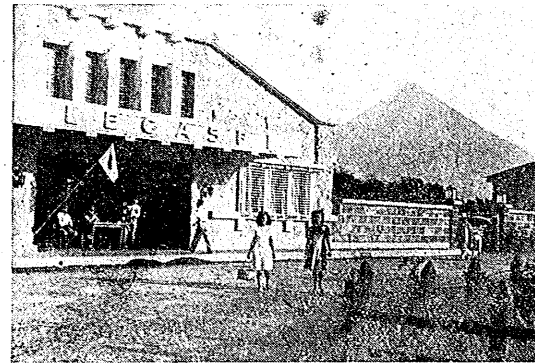


新 京 の 大 同 街

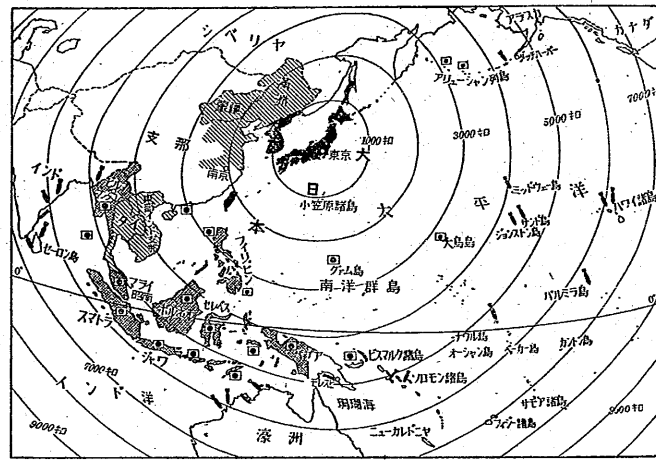
もつたわが國は、アジア大陸と太平洋のくさびとなり、大東亞を導きまもつて行くのに、最もふさはしいことが考へられるのであります。

大東亞の國々のうちでも、わが國の西隣りにある滿洲及び支那は、日本と全く不可分の關係にある大切な國です。ことに、新興の滿洲はめざましい發展をとげ、日本とはいちばん親しい間がらにあります。大陸の國支那は、土地が廣く人口も多いせゐるかなかなかまとまりにくい國ですが、大多數の人々は、今やわが國をたよりとし、力を合はせて進まう

とするやうになつて來ました。
 更に大東亞戦争以來は、昭南島を中心として、フィリピンや東インドの島々が、力強く大東亞の建設に加つて來ました。これらの島々の續きぐあひは日本とよく似てをり、その上、熱帯性の産物や鑛産が豊かで、いはば大東亞の寶ぐらにも當るところです。今までは米・英・蘭などの國々が、勝手なふるまひをしてゐたので、住民たちは、ひそかに日本の救ひを待つてゐたのでした。
 中でも昭南島は、太平洋とインド洋とを結びつける重要な位置にあるので、大



フィリピンの火山

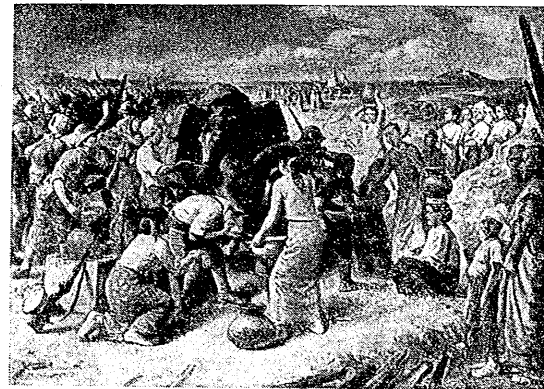


大東亞戦争の圖

東亞戦争が始ると、皇軍はすぐ北のマライ半島から攻め入つて、これを占領し、續いてこれらアジア大陸南東の島々から、米・英・蘭の勢力をいつさい拂ひのけてしまひました。
 マライに續くインド支那半島では、眞中にあるタイ國が、大東亞戦争が始ると、いち早くわが國に力を合はせ、やがて固い同盟を結ぶ間がらとなりました。インド支那の東部地方は、フランスと關

係の深い地方ですが、これも戦争前から日本の味方となり、経済的にもわが國と、しつかり結ばれてゐます。また西部地方のビルマは、わが國の攻略によつて、すつかり英國の勢力が拂ひのけられ、住民たちは非常にわが國を信頼し、みづから進んで大東亞の建設に協力してゐます。

インド支那の西にあるのが、廣大なインドです。長い間イギリスの領地となり、多くのインド人は、あはれな生活を経て來ましたが、今やかれらにも、めざめるのによい機會がやつて來たのです。わが國の勢力は

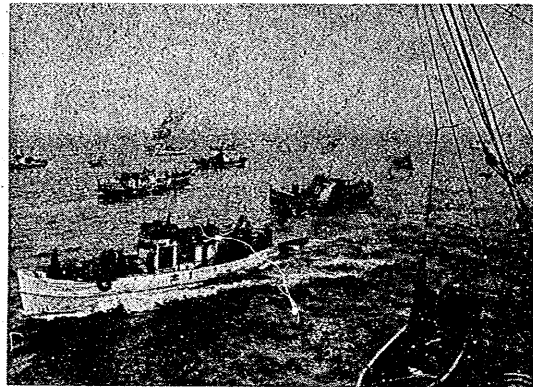


マングレー入城とビルマ人の協力

すでにインド洋へ及んでゐますから、やがてインド人も、西アジア

の人々とともに、アジアの民としての本然の姿に立ち歸る日が來るでありませう。

わが北洋の漁業



日本と滿洲の北には、廣いシベリヤの寒冷な地方があり、南樺太に續く北樺太とともに、針葉樹の大森林がひろがつてゐます。またシベリヤ東部の海は、わが北洋の漁場で、寒流性の魚がたくさん取れます。千島列島の北東には、北洋の中心カムチャツカ半島があり、更にアリューシャンの島々が、じゆつなぎになつて、アラスカへ

續き、更にカナダ・アメリカ合衆國方面へ連絡してゐます。皇軍は、このアリューシャン方面へも力強く作戰をしてゐます。

太平洋には、所々に小さな島々がたくさん散らばつてゐますが、中には眞珠灣の大爆撃で名高いハワイや、わが大島島などのやうに、きはめて大切な地點が少くありません。

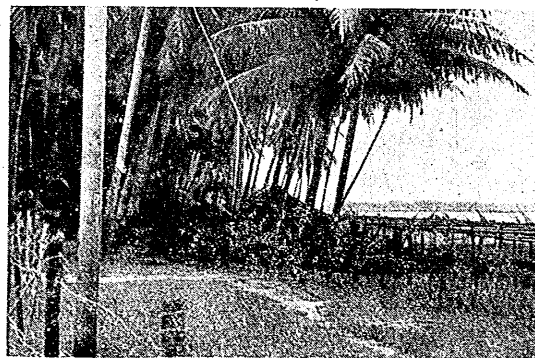
南太平洋の一方、わが東インド諸島の隣りにある濠洲は、大きな土地で、羊毛や小麥のたくさん産するところですが、その南東にあるニューギランドとともに、人口はいたつて少い地方です。これらはまだ大東亞建設の眞意を知らず、いたづらに米國や英國をたよつて、反抗を續けてゐます。

大東亞の諸地方は、このやうにわが國の力と指導によつて、新しく立ちあがり、また立ちあがらうとしてゐます。これら地方のすべての人々を、大東亞民族としてよみがへらせ、おのおのそのところを得させることこそ、日本の使命なのであります。

世界にはなほ、アジアの西に續くヨーロッパや、その南方にあるアフリカ、また、日本とは太平洋をへだてた北アメリカ・南アメリカなどの諸地方があります。このうち、ヨーロッパにあるドイツやイタリアなどは、日本と特に親しい關係を結んで、新しく正しい世界を打ち立てるために戦つてゐます。

二 昭南島とマライ半島

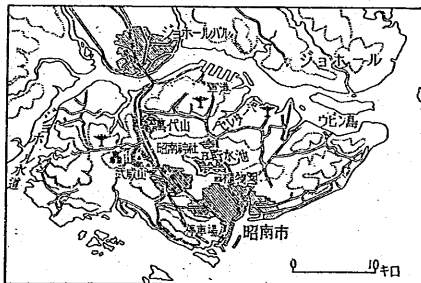
東京からまっすぐに五千三百キロへだたつた赤道に近い昭南島は、太平洋からインド洋へ出るのに、通らなければならぬのどのやうな場所を占めてゐます。日本が大東亞の中心であるやうに、昭南島は南方諸地方の中心になつてゐます。これほど重要なところですから、英國は、百二十年ばかり前からこの島をわがものにして、シンガポールといひなからは、軍港と商港の設備をととのへて、



コラバルの上陸地點

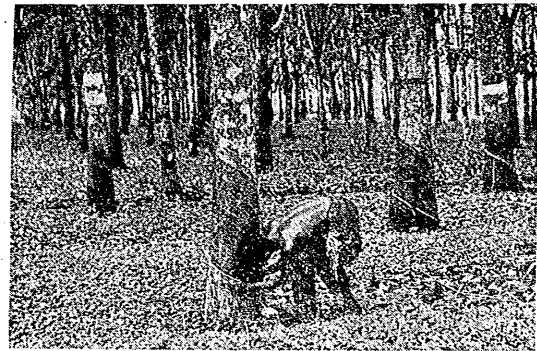
非常に大切にしてゐました、ところで大東亞戦争が始ると、わが軍は五十五日でマライを占領し、更に一週間で、難攻不落をほこつたシンガポールを落してしまひました。それ以來、島は昭南島、町は昭南市と改められ、マライ半島およびスマトラとともに、わが國によつて治められ、日一日と發展の一路をたどつてゐます。

昭南島から、ジョホール水道をへだてて北に續く地方が、マライ半島です。それは、インド支那半島から南にぐつと差し出した腕首のやうなところで、廣さは臺灣の四倍ほどあります。南西はマラッカ海峡をはさんで、スマトラへひとまたぎです。

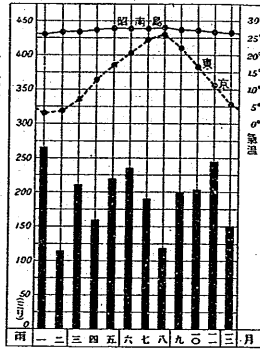


昭南島

ゴム・錫・鐵。マライ半島は、世界一のゴムの産地です。晝なほ暗い密林を伐り開いて作った畠の中に、きちんと並んだゴムの林が、汽車の窓からも眺められます。元來、ゴムは、年中暑くて、気温に變化が少く、雨が多く、しかも大風の吹かない土地に適するものですが、マライは、ちやうどそれにあつらへ向きの氣候です。日本人の經營したゴム園も、前からジョホール州を中心に、あちこちにありました。大東亞戦争以前、英國は、ゴムの大部分を米國へ賣り出して



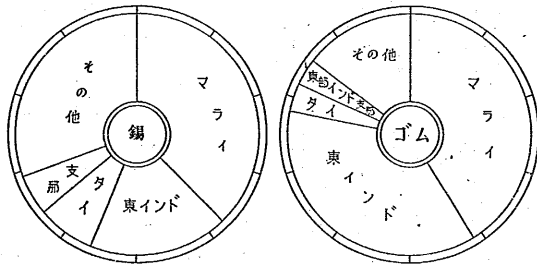
マライのゴム園



昭南の氣候表

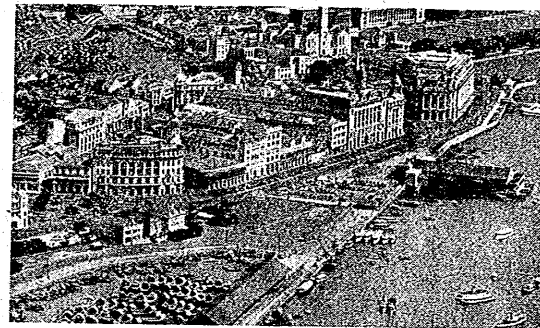
また海岸には、ココヤシがよく茂つてゐます。米もよくみのりますが、これまでは、この地方の人たちがたべるほど産出しませんでした。おいしい熱帯の果物は、一年中たべられます。

錫の産出は、世界の三分の一あまりに達し、昭南港とピナンから輸出されたものです。鐵山は、前からほとんど日本人が經營してゐたもので、鐵鑛の質がよく、わが國へ盛んに送り出されました。半島の南部とビンタン島からは、アルミニウム



ゴムと錫の産額のわりあひ

の鑽石になるボーキサイトを産します。



昭南市

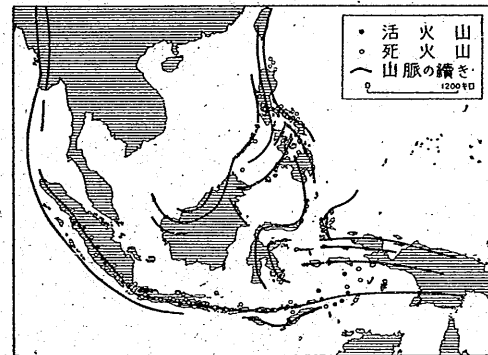
マライの住民 マライの人口五百五十餘萬のうち、いちばん多いのは、いはゆる華僑と呼ばれる支那人で、次はマライ人、それからインド人です。ヨーロッパ人は、最近でもごくわづかしかるませんでした。昔、日本人がこの半島へ盛んに來たことがあつて、八幡船を思ひ出させるパハン州の名は、そのころのことを物語るものといはれてゐます。今では、日一日と日本人の數が増えて行きます。

昭南市の人口は六十萬ぐらゐるで、おのづから三區に分れてゐるま

す。南の支那人町、中部の海に沿つた繁華な商業町、北のマライ人町がそれで、わが國の大商店は主として中部にあり、島内の岡の上に昭南神社があります。大汽船の碇泊するところは、町の南の方にあり、そのあたりは廣くて深い港で、各地方の船が集つて來ます。島の中には、りつぱな飛行場がいくつかあるし、北東の軍港も次第にととのつて行きます。

マライ半島の北西にある島の港ピナンや、内陸にあるクアラルンプールなど、いづれもりつぱな都市であります。有名なマレー沖海戦は半島の東海岸の沖合で行はれたのです。

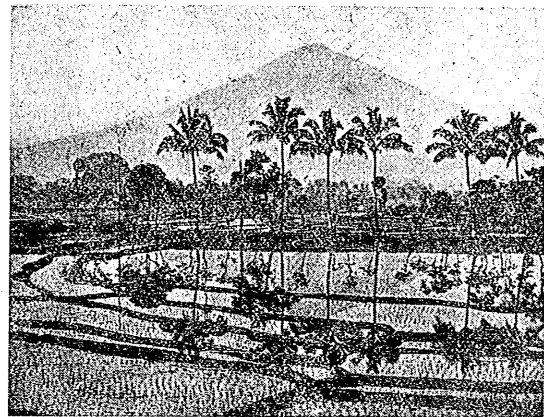
三 東インドの島々



山脈と火山の續き

東インドの島々は、アジャ南東部の海上、太平洋とインド洋との間にまたがつて、大きくひとかたまりになつてゐます。ボルネオ、スマトラ、ジャワ、セレベス、パプアなどの大きな島や、それに續く無數の島々から成つてゐて、よく注意して見ると、日本に似て、弓なりになつた山脈の續きが見られることや、火山帯がひとつながりになつてゐることは、われわれに何となく親しみをさへ感じさせます。

島々は赤道のごく近くにあるため、氣候はいつぱんに熱帶性で、



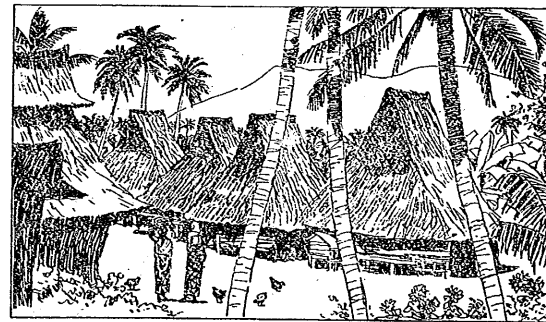
ジャワの風景

四季の區別がありません。風の向きによつて、乾季と雨季に分れるのがふつうです。ほとんど毎日、わが國の夕立のやうなスコールがやつてくるので、わりあひしのぎよいのです。山地へ行けば、氣候のたいそう溫和なところもあります。いっぽんに、強い日光と豊富な雨に恵まれてゐますから、農産物や林産物はぐんぐん生育し、また大東亞建設のために大切な鑛産物も、たくさん地下にあります。

これらの島々は、長くオランダやイギリスの領地となつてゐましたが、これも大東亞戦争が始ると、わづか数箇月の間に、ほとんど全部がわが軍に占領され、以來住民は、日本の力に導かれながら、希望にみちて働くやうになりました。

日本人は、以前からこの地方で、熱帯の氣候や病氣やその他の困難に堪へながら、いろいろの方面に活躍してゐました。今後の活動は、いつそうめざましいことであります。華僑もいたるところに住み、主として商業方面に勢力を持つてゐます。

石油とゴムのスマトラ スマトラは朝鮮をのぞいたわが國の大き。



スマトラの住民の家

さと同じぐらゐるな大島ですが、人口はあまり多くありません。住民は高原にも多く住んでゐますが、また

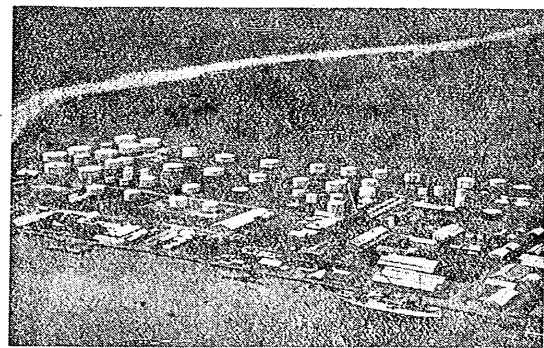


ジャワの民家

北東部にひろがつてゐる平野の一部を伐り開いて、ゴムたばこやしなどを作り、大きな農場も数多く見受けられます。中でも、ゴムは、マライ半島に次ぐ産額を示し、火山灰の積つた原野にはよいゴム園があります。マライと同じく、日本人の苦心して經營したゴム園も少くありません。廣い高原地帯もあつて、やがて盛んに開拓されるであります。山の

スマトラは、東亞第一の石油の産地であることを忘れてはなりません。勇敢なわが陸軍の落下傘部隊が占領したパレンバン附近の油田を始め、その北方のジャンビー附近、北部地方など、所々に油田があり、一年に五百萬トン以上を産します。マライ半島の方と連絡のあるバンカビリトンなどの島々は、錫を多く産出するので有名です。

人口の多いジャワ ジャワは大きさがわが本州の六割ぐらゐるですが、人口は本州よりちよつと少いといふところで、従つて人口密度の低いことは世界一といはれ、この點でほかの島々と



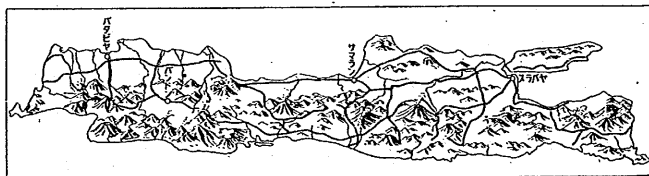
戦争前のパレンバンの石油蔵出場

は非常に違つてゐます。それは、一つにはこの土地

が、たくさんの、しかもいろいろな産物に恵まれてゐるからであります。

ジャワの火山

島の南側には、数多い火山が並んでゐて、富士山のやうな形の美しい山も見られます。道路や鐵道もよく發達して、ジャカルタ・スラバヤ・サマラン・バンドンなど、設備のととのつたりジャワは、三百年の間、少數の



ジャワの山々

つばな都市があります。

オランダ人によつて、わがままな支配を受けたところ。住民の大部分はごく従順で、竹としゆろとで作つたそまつな家屋に住み、回教を信じてゐます。ここには、華僑が約六十數萬人も住んでゐて、商業の方面で活動を續けてゐます。

ジャカルタは島の北西部にある政治・商業の中心地で、町は一帯の低地と、住宅などの多いやや高い部分とからなつてゐます。

ジャカルタの南のポイテンゾルグには、世界一といはれる熱帯植物園があります。スラバヤは、マズラ島をひかへた東インド第一の軍港で、商業も盛んに



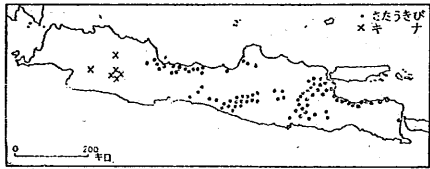
ポイテンゾルグの植物園

行はれてゐます。この沖からジャカルタ沖にかけての海戦で、わが海軍は米・英・蘭の聯合艦隊を撃ち破りました。

さたうきびとキナ ジャワには米を始め、さたうきび・ゴム・やし・タピオカ・たばこ・茶・コーヒ・キナ・じやがいもなど、ほとんど數へ切れないほどたくさんの産物がありますが、この中でいちばん有名なものは、さたうきびとキナです。

さたうきびは主に平地に栽培され、雨季と乾季のわりあひはつきり分れてゐる、中部から東部にかけての農園で、特に多く産します。今後大東亞の國々へ送り出されたり、アルコールの原料になつたりすることでありませう。

キナは、熱帯地方でかかりやすいマラリヤ病をなほすのに、大切



な薬の原料となる植物です。もと南米から移植したのですが、ジャワの土地によく適し、世界の九割を産するやうになりました。高さ一千メートル以上の高地で、年中涼しく、雨が多く、しかも風のあまり強くない場所に適し、バンドン附近の山地がその中心地です。じやがいもも、やはり高い土地でないとよくできません。この名は、ジャカルタの昔の名ジャガタラから起つたものです。タピオカはもっぱら住民の食料となつてゐます。

石油と森林のボルネオ　ボルネオは日本全



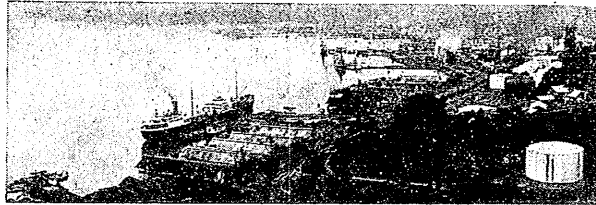
キナノ林

體より少し大きい島で、北の方には四千メートル以上の山があり

ます。海岸にあるいくつかの開けた港をのぞけば、大部分は、はてしない密林と沼澤です。川がこの島の主な交通路で、かなり奥地まで舟がのぼつて行きます。また、わにの住んでゐる川もあります。

この島の鑛産のうち、最も大切なものは石油で、北西部のセリヤミリー、北東部のタラカン島、東部のバリク・パン附近のサンガサンガ油田などがある有名です。今まで島全體から、年約二百五十萬トンぐらゐを産してゐました。

平地は、いつぱんに暑くて雨が多く、ゴム・サゴヤ・麻などに適し、また、ラワン・鐵木などの有用な材木が多く、次第に

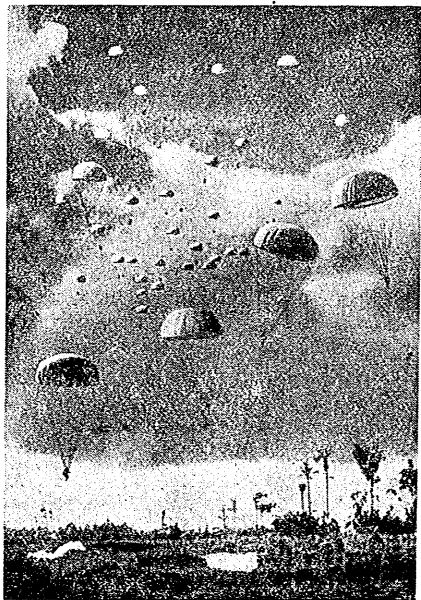


戦争前のバリク・パン

伐り出されるやうになりませう。タワオ附近では、日本人によつて早くから農園が開かれ、また漁業も盛んに行はれて來ました。南方のバンジェルマシンは、いかだや、小舟や、くひの上に建てられた、ふうがはりな水上家屋が密集してゐる大部落です。また北西にあるクチンは、支那風の商店の多い町です。セレベスとその他の島々 セレベスはボルネオの東部にあつて、細長い半島をかれこれ組合はせたやうな變つた形をした、山地の多い島です。北東部のミナハサ半島には美しい火山があり、その端にメナドがあります。



北ボルネオの住民

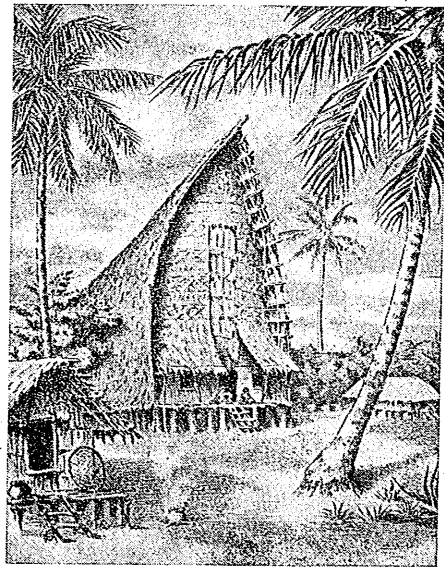


メナドの落下傘部隊

わが海軍の落下傘部隊が活躍したところです。日本人と同じ祖先を持つと信じてゐる住民が、日本人の指導のもとに、ココやし、綿米などの栽培を盛んに始めてゐます。この附近では、以前から日本人が、かつをやまぐろの漁業に活動して來ました。メナドから船で行くと、大體四日で行ける南西の端のマカッサルは、東インド諸島のほぼ中心にある大切な港で、大きな汽船も棧橋へ横着けすることが出来ます。

セレベスは、ボルネオと同様に深い森林におほはれた部分が多く、ニッケルや鐵礦も産出する見込みであります。森林からは、たんやこくたんも伐り出されます。

セレベスの東方にあるモルッカの島々は、昔香料諸島と呼ばれたことがありますが、それはセレベスとともに、いろいろの香料を産出したからです。南の方にあるセラム島に近く、アンボンの要地があります。ジャワの東に續く島々は、東西にならんでゐて、ところどころに火



バプアの住民の家

山が噴出してゐます。東方にあるチモル島は、コーヒー・ゴムなどのほか、石油金が有望であるとされてゐます。



未開の大島バプア わが南洋群島の南にあるのがバプアで、ボルネオよりさらに大きな島です。高い山脈が、北西から南東へかけ、ほぼ島の真中を走り、美しい極樂島のすむといはれる深い山や谷があります。ちぢれ毛のバプア人が、全島でわづか八十萬ばかり住んでゐますが、海岸の一部をのぞくと、大部分はまだほとんど開けてゐません。

しかし、日本人が北西の海岸モミ附近で、綿・ジュートなどの試作に

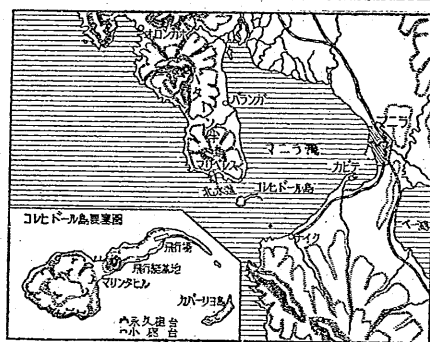
成功してゐますから、農業の將來は有望であり、鑛産なども有望だとされてゐます。また森林からは、今後ダマール樹脂が、たくさん産出するでありませう。

モミの北にマノクワリ港があり、島の南東にモレスビーの要地があります。この南東で、珊瑚海海戦が行はれ、わが海軍は大勝を博しました。パプアの北東にはビスマルク諸島があり、そのなかのニューブリテン島には、ラバウルの良港があつて、ソロモン諸島方面への大切な基地となつてゐます。



ダマールの林

四 フィリピン島の島々



マニラ附近とコレヒドール島

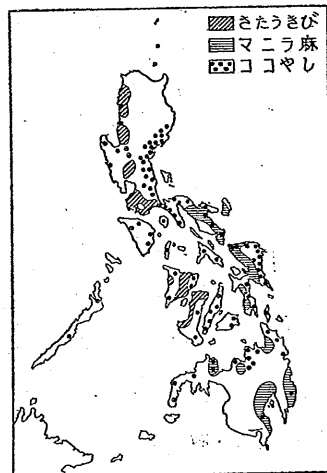
臺灣の南、わが南洋群島の西に、フィリピンの島々があります。島は、北から南東へ、または南西へと脈状をなして連なつてゐて、火山も所々にあります。太平洋側に沿つて、フィリピン海溝といふ、世界でいちばん深い縦長の海底が続いてゐることも、日本近海のやうすとよく似てゐます。

たくさん島のうち、大きくて重要なのは、秀吉のころからわが國に知られてゐたルソン島と、マニラ麻で名高いミンダナオ島です。さうして、この二つの間にもた

くさんの島々があります。

米國は、アジア方面へ發展する基地として、四十年來フィリピンを支配して來ましたが、大東亞戰爭が始つて半年のうちに、わが軍は全部の島々を占領してしまひました。マニラ灣の北西のバターン半島や、入口にあるコレヒドール島には、はげしい戦のあとが見られます。

さたうきび・コブラ・マニラ麻銅 フィリピン人は、日本人と同じく米を常食としてゐますし、米はルソン島を始め各地に産しますが、生産高のわりあひはわが國の三分の一にも及ばず、住民のたべるのにも不足してゐます。さたうきびは、ジャワと同じく、雨季と乾季の



さたうきび・マニラ麻・ココやし

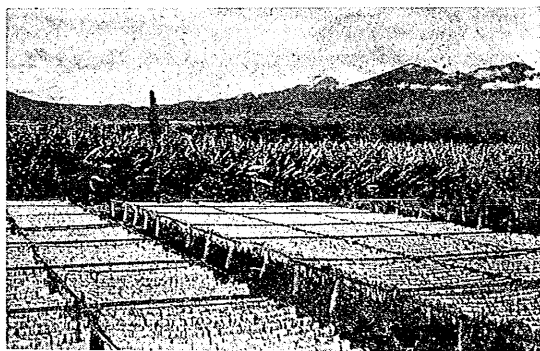
はつきりしてゐる島々の中ほどか、西側の方に多く産します。將來、綿の栽培も有望です。

ココやしは、風の強い島々の東側にもよく育ち、ちやうどわが國の海岸の松のやうな茂り方です。實はかわかし、コプ



フィリピンのココやし

ラとして盛んに輸出します。分布圖でわかるやうに、マニラ



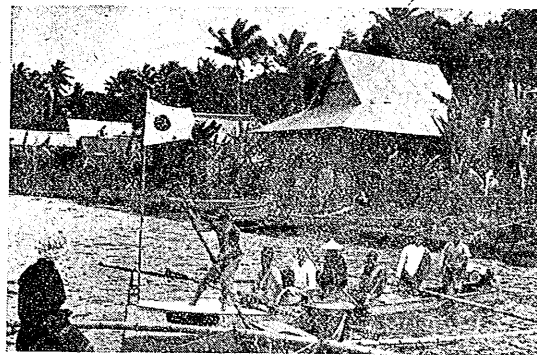
ダバオの耕地

麻が、ミンダナオ島を主とする南

部の島々に多いのは、年中雨が多く、颱風のえいきょうの少い場所に適してゐるからです。

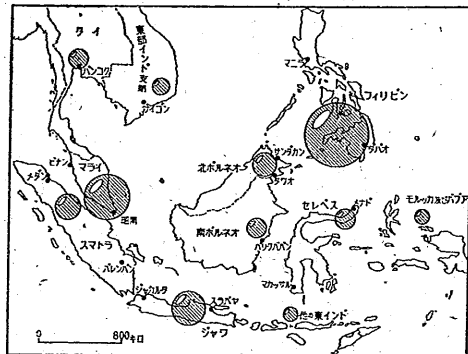
銅・鐵・金・クロムなどは、この地方の大切な鑛産物で、鐵鑛は、前からわが國へ輸出されてゐました。銅の産出はこれからで、將來有望の見込みであります。廣い森林の中から、ラワンがいちばん多く伐り出されてゐます。

フィリピンの住民 フィリピンの住民は、始めイスパニヤに支配されてゐましたが、そのころから、大部分がキリスト教を信じるやうになりました。いつぱんに從順な性質が



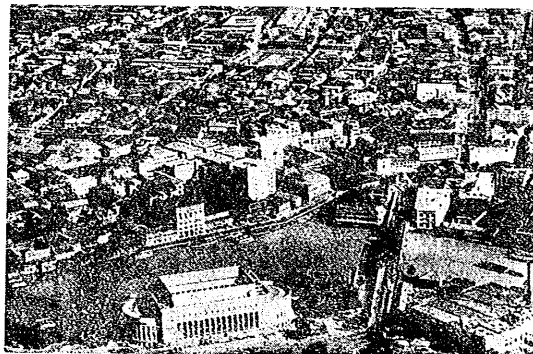
住民と渡し船

を持つてゐますから、今後日本人の指導を受けて、なまけやすい缺點も、次第に改めて行くであります。



南方諸地方の戦争前日本人の分布

ミンダナオ島のダバオ附近には、四十年前から前から日本人が移住して、一時は二萬近くをかぞへ、農業や林業を盛んに營んでゐました。マニラ麻を有名にしたのも、全く日本人



マニラの町

の努力のたまものです。また、戦前マニラ市には約四千五百人、マニラ北方にある千數百メートルの高地バギオ附近にも、約三千人の日本人が住んでゐました。マニラは設備のととのつた商港で、近くにはカビテの軍港があります。このほかセブ・イロイロなども、前から日本人の住んでゐたところで、それぞれ地方の中心都市です。セブの近くの島には、海の探検家マゼランがここでなくなつたので、その記念碑があります。



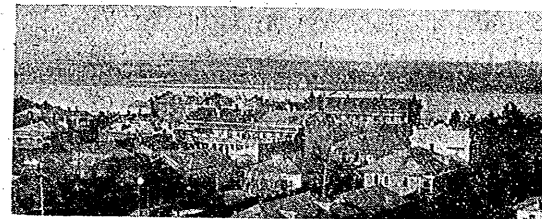
マゼランの記念碑

五 満洲

朝鮮と隣り合つて、日本とはまるで親子のやうな間がある國が、満洲です。その國境をながめると、北東から北へかけて、シベリヤとの境が長々と續き、一部分のほかは、およそ川によつてへだてられてゐます。すなはち、北の方には黒龍江があり、北東にはその支流のウスリ江があります。北西の方は、興安嶺の西側にあたるホロンバイル高原から外蒙古に續き、ノモンハンは國境の近くにあります。南西には熱河地方があり、興安嶺によつて蒙疆と境してゐます。また北支那とは、萬里の長城によつてしきられてゐます。海にのぞんでゐるのは南の一部だけで、そののど首のところ

満洲は、およそ北緯四十度から五十度にまたがつてゐますから、北海道や樺太と同じぐらゐの緯度にあり、新京は札幌よりも少し北に當つてゐます。

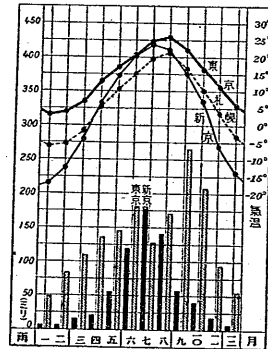
平原の國大陸性の氣候　満洲は、大平原を眞中にひかへ、わが國の二倍ほどもある國で、全體の形は、大きな菱形を思はせます。大平原の南には遼河が流れ、北には黒龍江の支流の松花江や嫩江が悠々と流れてゐます。これらの流域は、全くひと続きの平原になつてゐて、遼河の流域を南滿といひ、松花江・嫩江などの流域を北滿といつてゐます。朝鮮との境には鴨綠江と豆満江が流れ、この附近は山地が続き、平野は見られ、ません。



黒河の町と黒龍江

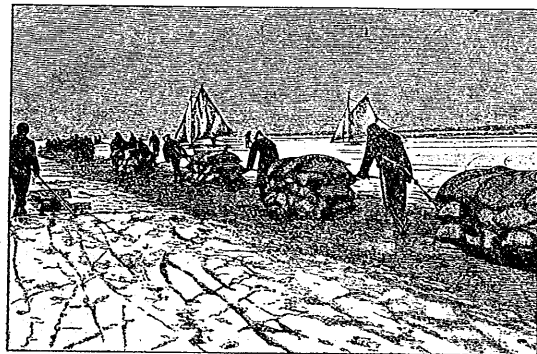
大陸の一部であることと、海のえいきやうが少いこととで、氣候

は大陸性の特色をあらはしてゐます。氣候表でわかるやうに、新京の冬は、一月の平均氣溫が零下十七度ぐらゐにくだりますが、札幌は零下六度ぐらゐです。しかし、満洲の冬はよい天氣が続き、いづばんに明かるい感じがします。夏になると、こんな北

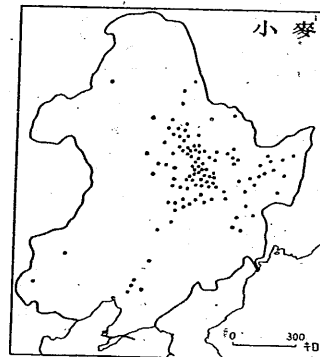
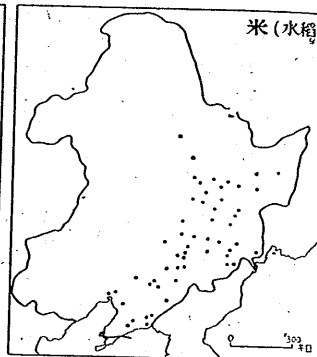
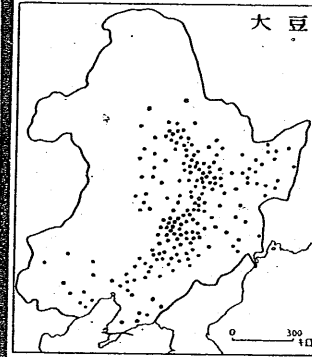
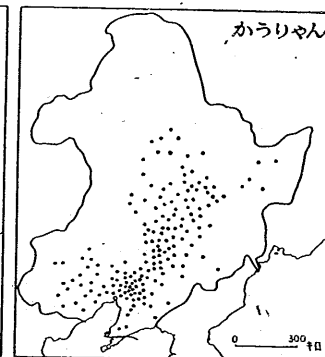


東京と新京の氣候表

にあるのになり暑く、札幌よりも高温です。



氷上の輸送



雨は、一年のうちで夏がいちばん多いので、農産物の生育によく適してゐます。しかし、いづばんに満洲は雨が少く、新京の雨を東京に比較しますと、三分の一ぐらゐるしか降りません。西の方へ行くに従つてますます雨は少く、つひに草原や沙漠さへ見るやうになります。

大豆とかうりやん 満洲は世界一の大豆の産地で、全満の平原に分布してゐますが、これは氣候や地味がよく大豆に適してゐるからです。かうりやんは、北

満よりも南満の方が少し多く、これが育つと、丈が高くのびて畠の見通しがききません。大豆は、主に日本その他へ輸出しますが、かうりやんはほとんど國內で使ひます。大豆や豆油は、日本人の食糧となり、また、工業方面でいろいろ役立ちます。また、豆油をとつたあとの豆粕も、肥料として大切であります。

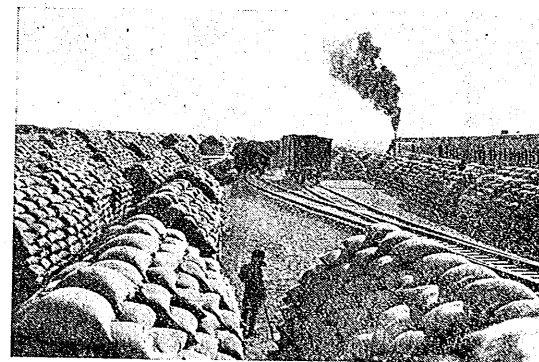
このほか、粟あは、とうもろこし、小麦なども多く取れますが、小麦は雨の少ない北満に、とうもろこしは主に南満に産します。米は半島人の多い満洲の東部に多く、最近では、わが開拓民の手で、樺太と同緯度

の邊にまで作られるやうになりました。綿は南の方でなければ産しません。

満洲の西の方には草原がひろがつてゐて、羊を飼ふ住民の群がところどころに見られ、大切な羊毛の産地となつてゐます。

朝鮮との境に近い山地や、北満の山地には、てうせんまつてうせんもみからまつなどの森林があつて、次第に伐り出されてゐます。關東州に續く海岸の塩田も、重要であります。

・石炭と鐵 石炭は満洲の地下にある大切な資源の一つで、約二



大豆の積み出し

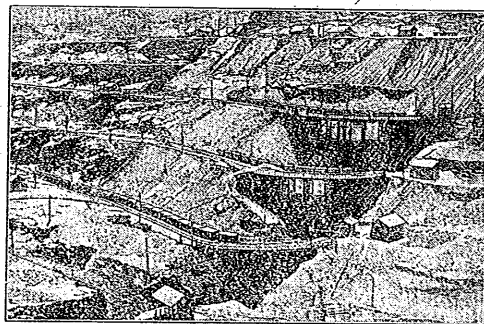


炭田・鐵山・山金

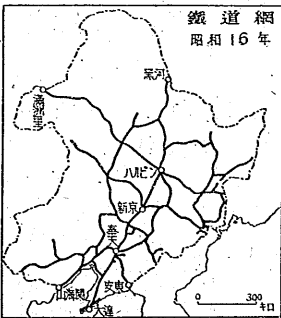
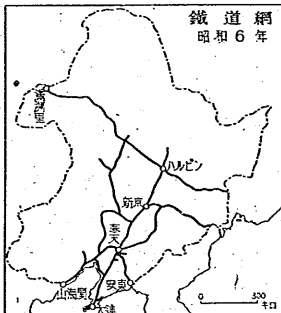
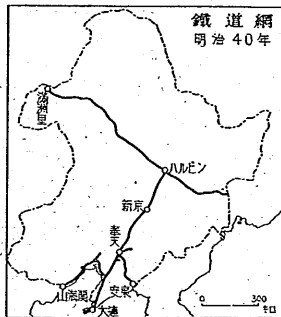
百億トンもあるものと見積られてゐます。撫順の露天掘は、鞍山の製鐵とともに、日本人のすぐれた技術を示すものとして有名です。

このほか、阜新、鶴崗、密山などの大

炭田が續々見出されてゐます。鐵山は、鞍山本溪附近、東邊道方面などにあつて、満洲全體では、約三十億トンもあるといはれてゐます。鞍山の鐵は、よい鑛石ではありませんが、りつぱに製鐵することができるといふようになりました。このほか、人造石油、マグ



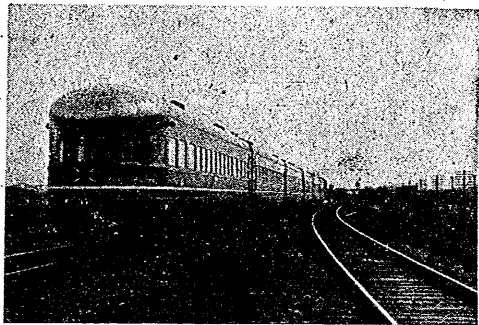
撫順の露天掘



鐵道網の發達

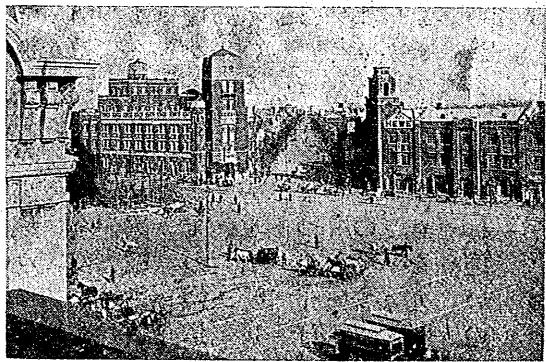
ネシウム・アルミニウムも作り出され、金・銀・砂金なども産します。このやうに、満洲には石炭や鐵が多く、また鴨綠江・松花江・鏡泊湖などの水力發電も盛んになつて來ましたので、種々の工業が、奉天を始め、南滿の各地に興つて來てゐます。

日滿の連絡 日本から滿洲へ行く路を地圖でしらべませう。まづ、門司から船で大連まで行き、そこから滿洲へはいる海の路があります。次に、關釜連絡船で釜山にあがつて、汽車で朝鮮を南か

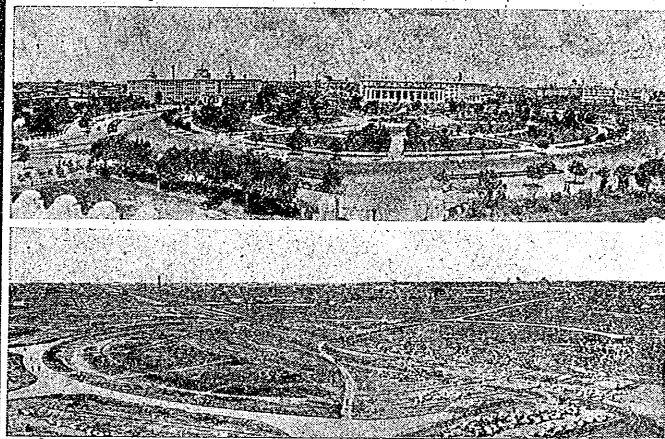


あ じ あ 號

ら北へ走り、安東から滿洲へはいる路があります。いま一つ、日本海を渡り、北朝鮮の港の一つを経て、新京へ行く路があります。東京から新京まで、釜山を経由するものは五十五時間、他の二つは大體七十時間です。航空機によると、直通航路は六時間ぐらゐで、着くことができます。



奉天の驛前通

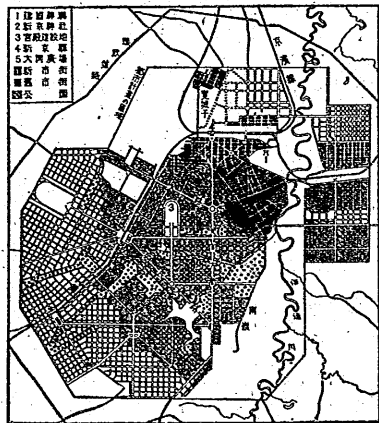


今の新京と十年前の新京

滿洲の鐵道は、わが滿鐵、すなはち南滿洲鐵道株式會社が、全部を經營してゐます。これは、日露戰役後間もなく、大連から新京までの鐵道、そのほかいろいろな經營を、引受け、ひと通りでない苦心によつて、今日の基礎をつくりあげたものです。大連から新京まで、七百キロを、九時半で走る特急あじあ號は、速いのに乗心地のよいのとで有名です。

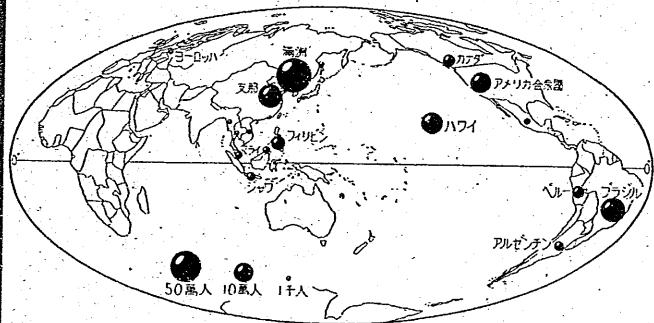
新京と奉天 滿洲の主な都市が、交通と深い關係のあることは、地圖

を見て、わかります。奉天、四平、新京、ハルビン、吉林、牡丹江、チハル、錦縣などは、よい例でせう。中でも、三月十日の大會戰で名高い奉天は、南滿の中心地であり、今では盛んな商工業都市として發達し、いはば滿洲の大坂に當るものとなりました。舊城内と日本人の作つた新市街と、工場の多い地區の三つから成り、人口約百二十萬を數へ、そのうち内地人は十五萬人をこえてゐます。昭和六年には、わづか三萬五千だつたのが、十年の間に四倍以上になつたわけです。



新 京

新京は滿洲の首府で、全滿の中心に當り、政治の都であつて、交通



世界に住む日本人
(大東亞戦争前の有様)

も便利です。満洲國皇帝はここにおいでになり、わが全權大使もここにゐます。昔長春といつたのが、日本の技師によつて新しく都市計畫がほどこされ、その規模は世界でもあまり例のないほどりつぱなものです。

ハルピンは北滿の中心地で、夏はここから松花江を汽船でくだることができ、冬は氷上の輸送も行はれます。安東と圖們は朝鮮との境にある、いはば滿洲の陸の入口であり、營口は遼河の川口にある満洲らしい町です。熱河地方には承

徳があつて中心地となつてゐます。満洲里や黒河はシベリヤとの境にある町で、交通上軍事上大切なところですよ。

満洲の住民とわが開拓民 満洲には、四千三百萬の人々が楽しく生活してゐますが、その大部分は満人で、最近百年ぐらゐの間に、北支那方面から移住したものです。昔から満洲に住んでゐた人たちは、二百六七十萬人で、東部に多く、蒙古人は大體西部に住んでゐます。

日本人は、おほよそ内地人八十餘萬、半島人百五十萬を數へます。特に農業方面では、將來二十年間に、内



開拓民の家

地人五百萬人の開拓民を送る計畫であり、それがどしどし實行されてゐます。満洲國のできた昭和七年、松花江の川べりにある佳木斯に近い現在の彌榮村に、第一次の開拓民を送り、明くる年には千振村へ、第三年には瑞穂村へ送りました。非常な苦心の末、今ではどれも皆りつばな模範村となつてゐます。その後毎年、計畫に従つて、たくさんの開拓村が建設されて行きます。

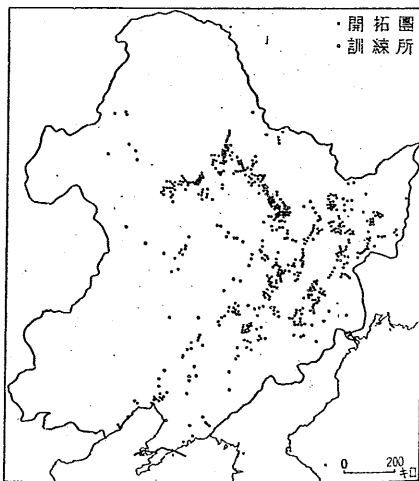
開拓民のほか、昭和十三年からは、國を思ふ元氣な青少年が、毎年二萬ぐらゐる勇ましく渡滿してゐます。これらの青少年は、満洲開拓青年義勇隊に



耕す義勇隊員

入隊し、約三年間現地においての實地訓練を受けてから、開拓民の中心となつて活動するのです。

満洲國の生ひ立ち 満洲は、昔からわが國と關係が深かつたのですが、ロシヤが南下して満洲をふみにじり、朝鮮をおびやかしたので、日本は東洋平和のためにをしく立ちあがりました。かうして起つた日露戰役において、忠勇な十萬の將兵を失ひ、莫大な國富をつひやして、ロシヤを北の方へ追ひ拂つたのです。その後、支那はあやまつた抗日思想にとらはれて、日本をあなどる

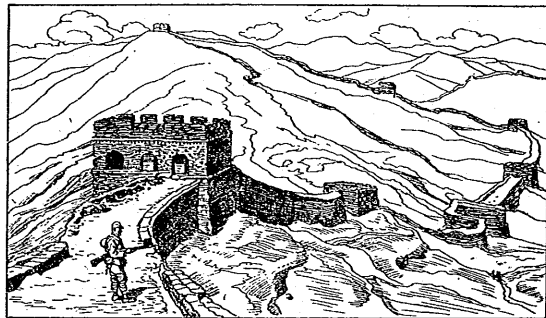


わが開拓民の分布

やうになつたので、昭和六年九月、満洲事變が起り、その結果満洲國が誕生しました。

満洲國皇帝は、満洲を祖國とする清朝の末に當られるかたです。満洲の建國神廟には、満洲國の元神として天照大神をおまつりになつてゐられるほど、わが皇室にお親しみになり、日滿一徳一心の關係を明らかにお示しになつてゐます。われわれ日本人は、今後いよいよ眞心をもつて満洲國人を導き、この國の成長をまもらなければなりません。

六 蒙疆

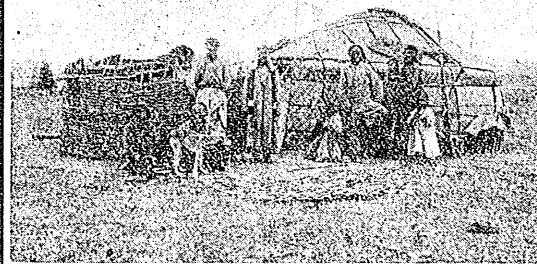


萬里の長城

満洲の南西にある興安嶺を越えると、廣い草原や沙漠の續く地方があります。北支那平野からでは、急な山坂を通り、名高い萬里の長城を越えて行つた高原に當ります。昭和十四年九月以來、ここに新しい政府が生まれました。これを蒙古聯合自治政府といひ、この地方をふつうには、蒙疆と呼んで、支那本部から區別してゐます。北の方にはゴビ沙漠がひろがり、そのまま外蒙古に續きます。蒙疆は満洲とともに、口

シヤ方面からはいつて来る、よくない思想を防ぐのに重要な地方です。地圖でもわかるやうに、北支那に近いところだけは、萬里の長城が内と外の二重に作られてゐます。これは、昔、北支那がこの地方からしばしば攻めこまれたことがあるためです。

鐵道は、天津、北京方面からと、太原方面からとはいつてゐて、それに沿つて張家口、大同、厚和、包頭など、主な町々があります。特に張家口には、日本人がたくさん住んでゐます。南の方の部落や町には、主として漢人が多く、輿地には、蒙古人の包がところどころに見られます。包は



蒙 古 人 の 包

草地を追つて移動することのできる便利な家屋です。

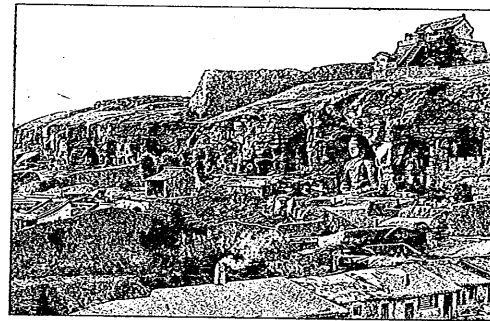
この地方に住む約三十萬の蒙古人は、ラマ教を深く信じ、羊、山羊、牛、馬などを飼ひ、漢人から日用品を買つて生活してゐます。熱河地方に近いドロノールは、沙漠の中にある町で、名高いラマ寺があります。

いづぱんに高原であり、海から離れてゐるので、氣候は大陸性を示し、夏のほかは雨もほとんど降りません。それで、南部の盆地に住む住民は、夏の間に小麥、燕

麥、じやがいもなどを作ります。また羊毛や毛皮は、らくだに乗せ



包 頭 の 羊 毛 市 場



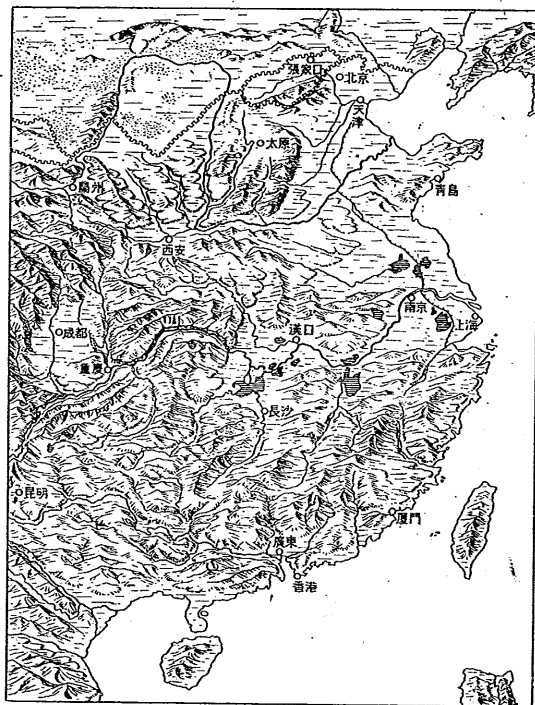
大同の石佛

されます。

たり、鐵道やトラックに積んだりして、北支那の方へ送り出します。黄河上流の五原地方には、黄河から引き水をして作る畠がひろがつてゐます。沙漠からは塩を産します。

張家口の東に龍烟鐵山があり、質のよい鐵鑛を盛んに掘り出して日本へも送つてゐます。石佛で有名な大同附近には、大きな炭田があつて、よい石炭が盛んに掘り出

七 支那



支那の地形

支那を地圖で見ると、東側だけが海にのぞみ、そこに大平野や川の出口があつて、西の方は大高原、大沙漠、大山脈などが續いてゐることに氣づきます。主な川は、西

方の高原から出て大體東へ向つて流れ、海にそそいでゐます。

北の方を流れるのが黄河で、その流域を北支那といひ、眞中どころを流れるのが揚子江で、その流域を中支那といひ、南の方を流れるのが珠江で、その流域を南支那と呼んでゐます。さうして、これらの川の流域をひつくるめたのが大體支那本部で、西方の高地とおのづから區別されてゐます。

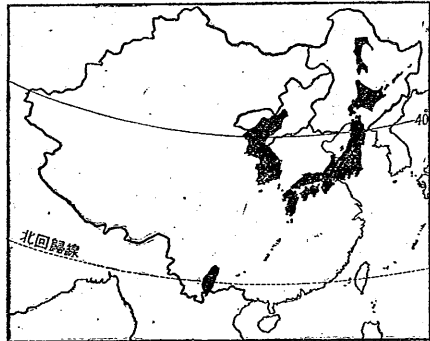
三つの川のうちでも、いちばん大切なのは揚子江で、川幅の廣いこと、流域の大きなこと、流域に人のたくさん住んでゐることなど、世界にあまり例がないほどのすばらしさです。

黄河の下流には、北支那の大平原があり、これもわが本州がおほよそ、その中へはいつてしまふぐらゐの大きさです。わが國とくらべると、支那のものは川でも、平野でも、山地でも、すべて大規模で、大陸的です。

東側の海は、黄海・東支那海・南支那海などに分れてゐますが、いづ

れもいはば日本の内海であり、日支間の連絡を便利にしてゐます。

上の圖のやうに、日本と支那を重ね合せて見ますと、北支那のあるところは、わが青森から東京までに當り、中支那のあるところは九州に當り、南支那のあるところは臺灣に當つてゐます。従つて氣候も、日本と支那とは、大體この位置によ



日本と滿・蒙・支の重ね合せ

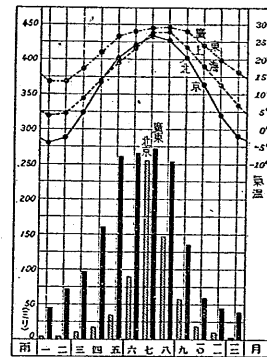
つて比較することが出来ます。

北支那は雨も少く、氣溫も低いのですが、中支那から南支那へか

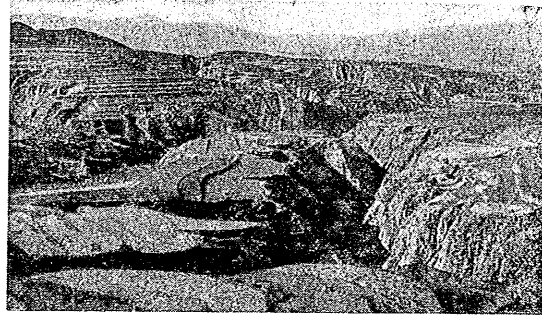
けては、南へ行くほど、だんだん雨も多くなり、氣候も暖かで、遂には臺灣のやうな亞熱帶性の氣候をあらはします。ただ大陸ですから、北支那などは、日本よりもむしろ滿洲に似たところがあり、夏と冬では、暑さ寒さも、きびしいのがその特色です。奥地の大高原は全く内陸にあるので、蒙疆よりもつとはげしい大陸性の氣候を示し、雨のないところは、廣い沙漠となつてゐます。

廣さは支那本部だけで、わが國の七倍ぐらゐに當り、人口も約四倍ぐらゐあります。日本はこの大きな支那と協力して、大東亞の建設をしようと非常な努力を拂つてゐるのです。

北支那の自然と産物 北支那は、北支那平野と、その東に突き出た



北京と廣東の氣候表

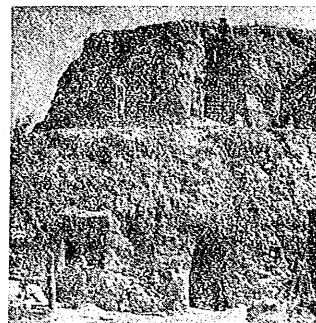


黄土層の山地

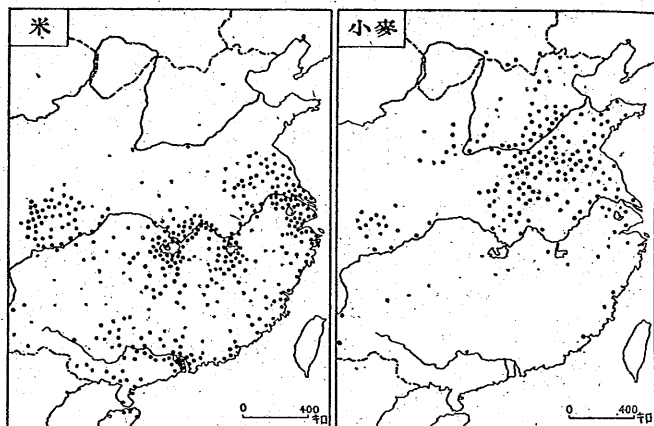
山東半島及び山西地方以西の高原とから成つてゐます。滿洲・蒙疆と直接境を接してゐるので、政治上特に大切な地方です。この地方は、一帯に黄土におほはれ、山西方面には、ずるぶん厚く堆積してゐるところがあります。これは、蒙古や、もつと西の方面から、風で運ばれて來たものだといはれてゐます。黄河と、その流れこむ黄海は、黄土をふくむため黄色なのです。黄土の層は、やはらかく肥えてゐて、いたるところの頂上まで耕されてゐるところもあれば、がけの部分に部屋を作つて人の住んでゐるところもあります。

この黄土が黄河や白河の水に運ばれてできたのが、北支那平野です。土地はいっぱんに肥えてゐて、農業が営まれ、土地も早くから開けましたから、中原と呼ばれて來たのです。ただ困るのは大洪水で、黄河の流れは、あるひは山東半島の南側へ、あるひは北側へと度々變り、北支那平野の人々は、その都度なやまされることがひと通りではありません。

この平野の氣候は、滿洲に似て大陸性ですが、夏わりあひ雨が降るので、農産物が多く、その種類もほとんど滿洲と一致してゐます。すなはち、小麥・大豆・かうりやん・粟・たうもろこし・落花生などをたくさん産出します。綿は、南であるだけに、滿洲よりはるかに多く栽



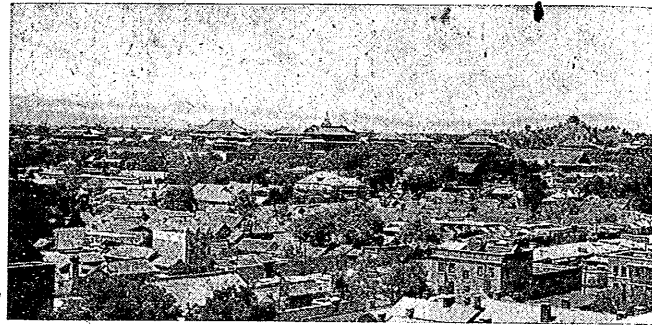
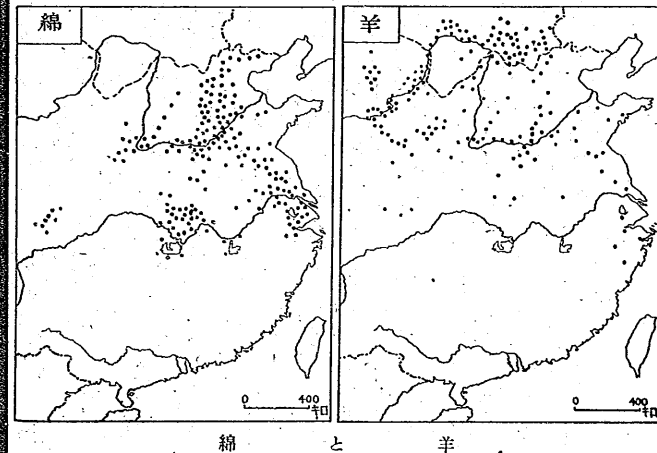
黄土層の家



培され、この地方の大切な産物となつてゐます。しかし、いづぱんに雨は少い方であり、土もかわいてゐる方なので、これまで米はほとんど作られてゐませんでした。また年によつて、ひでのため畠作物の取れないこともあり、また年によつて、ひでの年などに、住民たちは、仕事をさして他方へ出かけるものが多く、さういふことで、滿洲へ移つた支那人も少なくありません。

北支那には、滿洲と同じく馬、ろばが多く、それらはうんばん、または耕作などに使はれてゐます。支那人の食用とする豚は、全體に廣く飼はれ、山東方面の牛は、わが國へも食用として送り出されます。羊は、主に蒙疆に近い雨の少い地方に飼はれてゐます。

北支那の石炭は全支の八割、鐵は全支の半分と見積られ、最も大切な資源とされてゐます。渤海の沿岸は、遠淺で、雨が少く、風がよく吹くの



北京の城内

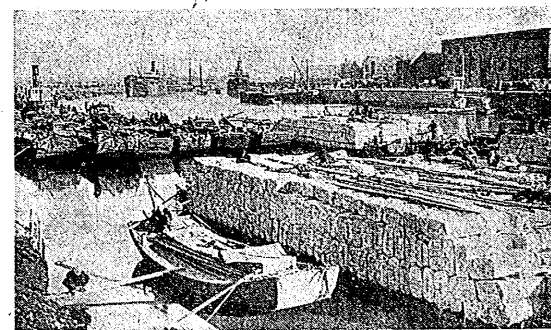
で、關東州や北朝鮮と同じく、天日製塩が盛んに行はれ、工業塩としてわが國へたくさん輸入されてゐます。

北京、天津、青島 北支那方面には、以前から日本人がたくさん住み、各方面に活躍してゐました。最近では、特に北京、天津、青島、濟南、石門、太原などに多く住んでゐます。

北京は、北支那の政治の中心地であり、元や清の時代の都で、人口約百六十萬を數へる大都市です。大規模な城郭をもつてめぐらされ、内城にはりつばな宮殿や、城門や、そのほか大きな建物が残つてゐます。日

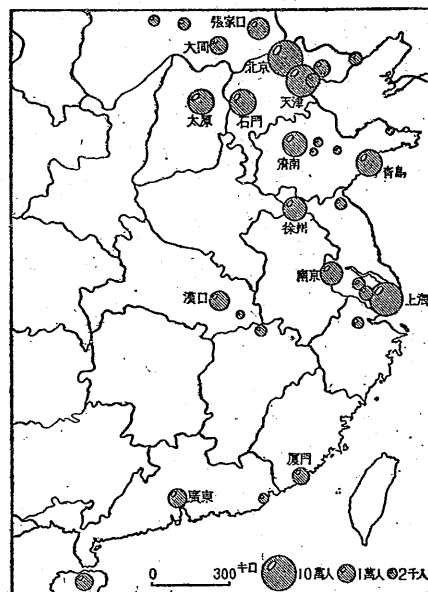
本人は主にこの内城に住み、その数は増加する一方です。内城の南に接し、商店の多い場所です。市街はいつぱんに樹木が多く、街路はごばんの目のやうにきちんとしてゐて、落ちついた感じを與へます。

北京から百四十キロへだたつた天津は、白河の川口から七十キロほどはいつたところにある港で、北支那一帯の出入口として榮え、大運河はここから起つてゐます。日本人經營の紡績製粉會社などがあつて、盛んに活動してゐます。塘沽は天津の外港であり、秦皇島は開港炭田から産する石炭の積出



天津の船着場

港であり、山海關は滿洲との境にある町で、萬里の長城はここから始つてゐます。



支那に住む日本人の分布

天津から南へ鐵道が縦に走り、それに沿つて濟南や徐州などの町があります。濟南の南方曲阜には、孔子の廟があり、徐州は、支那事變第二年の五月に、有名な大會戦が行はれたところで、國と關係の深かつた炭田があります。青島は、北支那第二の貿易

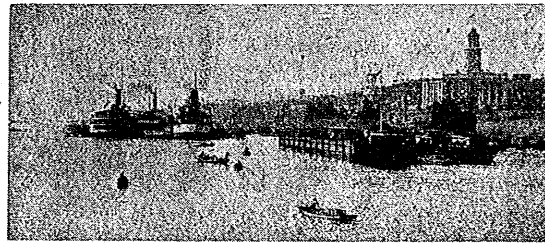
港で天津と同じくわが紡績工場が多く、マツチ・ゴムなどの製造も行はれてゐます。山東半島の北にある芝罘の良港は、青島とともに、この方面の主な移民の出入口となつてゐます。

北京から南、漢口方面へ向かふ鐵道の沿線には、石門や鄭州などの町があります。石門から西へ行く鐵道は、山西の中心太原へ行きます。山西方面は、支那で石炭鐵の最も多く地下にある地方です。石門の近くには、井陘の炭田があります。鄭州に近い開封や、河南は、潼關の西の渭水盆地にある西安などとともに、四千年の支那の歴史を物語る古い都のあつたところでした。河南は昔洛陽、西安は長安と呼ばれたことがあります。西安から西へ向つて重要な道路が續き、蘭州その他の町を経て、遠くヨーロッパへも通じてゐます。

中支那の水運と産物

揚子江の水運の便利なことは、世界第一

であります。川口から千三百キロへだたつた漢口まで、夏の増水期には一萬トン級の汽船がのぼり、冬の減水期でも四千トン級の汽船がのぼります。更に漢口から宜昌を経て、千二百キロ上流の重慶まで、増水期には千トン、減水期にも三百トンの船が通ひます。夏、南東風の吹くころは、雨がたくさん降つて増水し、冬、北西風の吹くころは、雨が少く減水するのです。増水と減水の差は、漢口では十二メートルに達し、減水期には河岸が急なげとなるので、南京、漢口などの主な船着場には、大規模な浮棧橋が設けられ、それに汽船がつ



漢口の浮棧橋

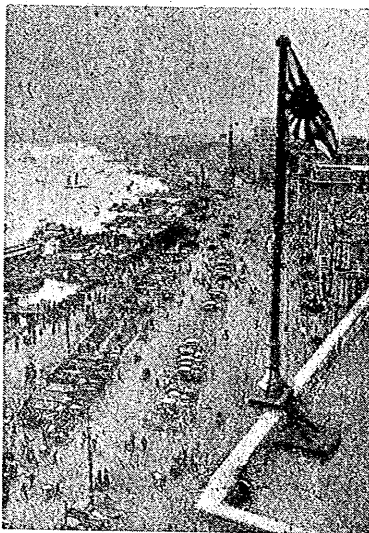
な、がれるやうになつてゐます。上海は揚子江水運の起點となつてゐますが、それは揚子江の川口に近い吳淞へ流れこむ支流の黄浦江にのぞんでゐます。

中支那は、かうした水運に恵まれて、一帯に産業が盛んであり、人口も非常に多く集つてゐます。氣候も北支那より暖かで、雨も多く、従つて米を始め綿、茶、麻、たばこなどを多く産し、またわが國のやうに養蠶も行はれてゐます。揚子江の中流の大冶や、下流に近い桃冲などには、鐵山があつて、早くからわが國の八幡製鐵所へ鑛石を送つてゐました。上海や漢口には、近代工業も盛んになつて來てゐます。

上海南京漢口 上海は支那第一の大貿易港で、人口五百萬を數へ、東亞有數の大都市です。日本人はおよそ十萬を數へ、しかも日毎

に増加して行きます。長崎からほぼ一晝夜で達し、船の連絡はきはめて便利です。工業が盛んで、わが國の人たちの經營する紡績

業も非常に發達してゐます。大體の位置が支那の



上海の江岸

中央にあるので、此の港が仲繼地となつて、東亞の各地や、揚子江の流域の港々と取引をし、事變前は全支貿易の六割を占めてゐる有様でした。上海の郊外には、クリークが無數にあつて、その間に水田や綿畠が多く、墓地や竹やぶなども、ところどころに見られます。上海事變や、支那事變當時の激戦をしのばせる戦跡地も方々

に残つてゐます。



らの鐵道も通じてゐます。

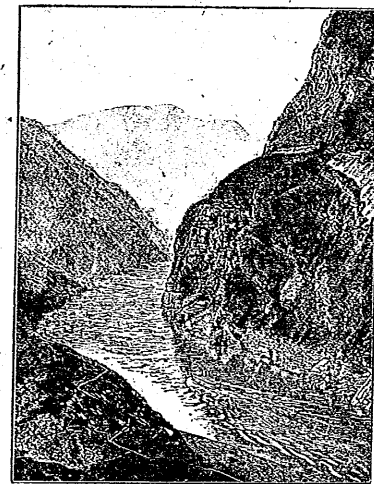
上海の南西には、名高い西湖のある杭州があり、北西には水郷の町蘇州があります。鐵道は、蘇州を通じて南京へ行きます。南京は、新しい國民政府のあるところで、昔からしばしば支那の都となり、北京に次ぐりつばな城郭を持つた都市です。中山、光華、中華、玄武など十六の城門を數へ、勇ましい皇軍は、これらの門のあるひは突き破り、あるひは乗り越へて、城内へ進軍したのであります。南京の對岸の浦口へは、天津か

南京から揚子江をさかのぼると、江西盆地内の農産物を集散する九江の港があります。九江の南鄱陽湖にのぞむ廬山は、高さ一千メートルあまりで、風景がよく、附近には、皇軍の奮戦したあとが見られます。盆地のほぼ中心にある南昌は要地で、ここから東は杭州へ、西は長沙へ、通じる鐵道があります。

揚子江と漢江の合するところに湖廣盆地の中心、漢口があり、漢陽、武昌とともに武漢三鎮といはれ、皇軍は事變第二年の十月にここを占領しました。北は北京から、南は廣東から鐵道が通じ、支那の大中心地であります。上海から漢口までは、東京・下關間よりも距離が長く、汽船でふつう四日かかります。日本人は、事變前からここにたくさん住んでゐて、各方面に活躍してゐました。

漢口の南西には、有名な洞庭湖があつて、夏期の増水期には、天然

の貯水池の役目をつとめます。湖廣盆地南部の山地からは、タンガステン・アンチモニーなどを産します。盆地の西部にある宜昌から西は、兩岸に山がせまり、川も急流のところがあります。更にさかのぼると、四川地方の中心である重慶に達します。今日なほめざめない支那人の集つてゐるところで、しばしばわが勇敢な荒鷲に爆撃されてゐます。



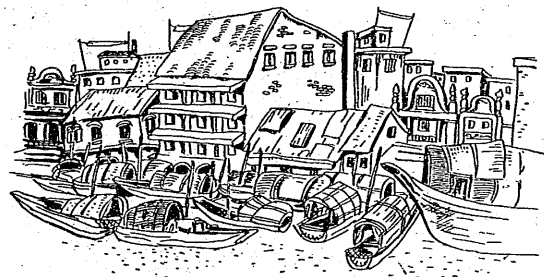
揚子江の上流

四川地方は、周圍に山をめぐらし、ほぼわが内地の面積ほどある大きな盆地で、農産物や鑛産物も豊かであり、昔から特別な地域をなしてゐます。成都は、この盆地の一中心地で、西康省やチベット方面への入口に當ります。

亞熱帶の南支那 南支那は、珠江の流域と臺灣海峡にのぞむ地方とを指し、中支那とは一帯の山地によつて分けられてゐます。氣候は亞熱帶性をあらはし、中支那よりいつそう暖かく、また雨も多いので、平野からは米・茶・さとうきび・たばこなどを産出し、バナナやパイナップルもでき、竹やくすの木などもよく生育する點で、臺灣とよく似てゐます。養蠶も行はれてゐますが、いつぱんに山がちで、平地が少く、人口が多すぎるため、年々南方諸地方へ出かせぎする數が少くありません。これが、いはゆる華僑と呼ばれる人たちなのです。

珠江の三角洲上にある廣東は、南支那の物資の大集散地で、人口

約百二十萬を數へ日本人も、南支那ではいちばん多く住んでゐるま



廣東の町と小舟

す。水上には、小舟に生活する人々が三十萬の多數に及び、水郷にふさはしいおもむきをあらはしてゐます。厦門は、臺灣の對岸にある景勝の地で、福建地方の良港です。貿易はあまり振ひませんが、汕頭、福州、温州などとともに、華僑が最も多くこの地方から出かけます。臺灣に近いため、本島人も約一萬人ここで働いてゐます。

珠江の上流地方には、雲貴高原と呼ばれる山地があつて、タングステン、錫などの鑛産に富み、東部インド支那やビルマと連絡する路があるので、注目

なしてゐます。成都はこの盆地の中心地で、西康省やチベット方面への入口に當ります。

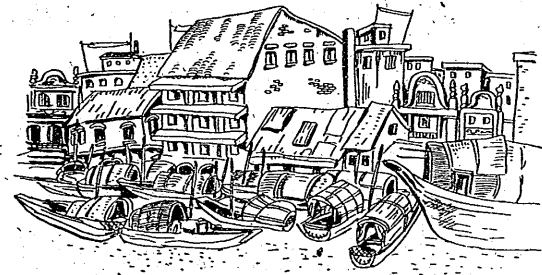
亞熱帶の南支那 南支那は、珠江の流域と、臺灣海峡にのぞむ地方とを指し、中支那とは一帯の山地によつて分けられてゐます。氣候は亞熱帶性をあらはし、中支那よりいつそう暖かく、また雨も多いので、平野からは米、茶、さとうきび、たばこなどを産出し、バナナやパイナップルもでき、竹やぐすの木などもよく生育する點で、臺灣とよく似てゐます。養蠶も行はれてゐますが、いつぱんに山がちで、平地が少く、人口が多すぎるため、年々南方諸地方へ出かせぎする數が少くありません。これが、いはゆる華僑と呼ばれる人たちなのです。

珠江の三角洲上にある廣東は、南支那の物資の大集散地で、人口

P.95 重複

七十七 七十八 頁欠

P. 77. 78 欠



廣東の町と小舟

産に富み、東部インド支那やビルマと連絡する路があるので、注目

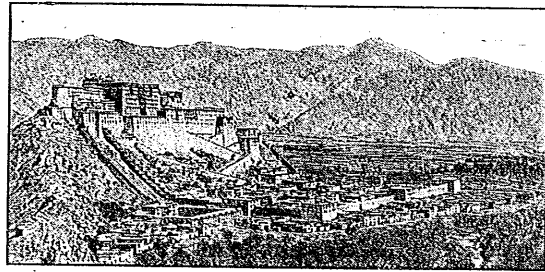
約百二十萬を數へ、日本人も、南支那ではいちばん多く住んでゐる。水上には、小舟に生活する人々が三十萬の多數に及び、水郷にふさはしいおもむきをあらはしてゐます。厦門は、臺灣の對岸にある景勝の地で、福建地方の良港です。貿易はあまり振ひませんが、汕頭、福州、温州などとともに、華僑が最も多くこの地方から出かけます。臺灣に近いため、本島人も約一萬人ここで働いてゐます。

珠江の上流地方には、雲貴高原と呼ばれる山地があつて、タングステン、錫などの鑛

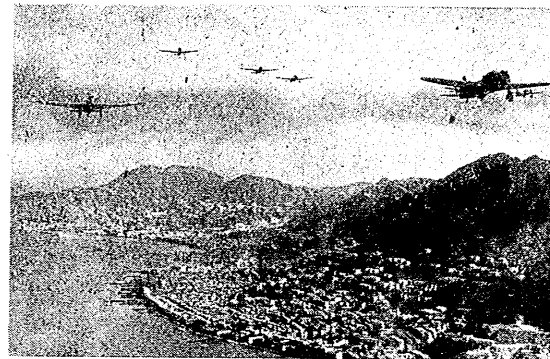
方を天山北路といひ、特に天山北路は、北支那からロシアへ通じる路として利用されてゐます。

チベットは、その東方の青海地方とともに大きな高原をなし、南には、高いヒマラヤ山脈がインドとの境に横たはつてゐます。高原は四千メートルもあり、氣候も大陸性をあらはし、羊や、やぐが飼はれてゐるほかは、農産物はあまり採れません。住民はラマ教の信者で、インド方面からはいる英國の勢力のもとに、まづしい生活をしてゐます。大きなラマ教寺院のあるラッサは、チベットの中心都市です。

新生の香港 南支那の香港は、昭南島に似て、その位置がよく、百



ラッサの寺院



城入の空の香港

年間英國の東亞における大切な根據地の一つとなつてゐました。山がちの美しい香港島と九龍半島との間の水道が、天然の良港で、上海と同じく仲繼貿易が盛んに行はれてゐましたが、大東亞戦争が始ると、皇軍はたちまちこれを攻略し、以來新たに大東亞建設のための要地となり、工業も盛んになつて來てゐます。

日本と支那 日本と支那ほど昔から關係の深い國はありません。兩國は隣り合ひの國であり、また日本と最も親しい間がらにある滿洲とは、陸續きで接してゐます。支那は、古くから開けた大陸の國で、日本

との交通も早く始り、それが今日に及んでゐるのです。人種としても近く、文字も共通のものを使つてゐるばかりでなく、お互に足らない物資や商品を補ひ合ふべき間がらの國であります。すなはち、日本の非常に發達した工業の製品を支那へ送り、支那の鐵石炭、タンングステン、綿羊毛、桐油などを日本へ送るのです。また、大きな支那の資源と勞働力が、今後日本のすぐれた技術と力強い資本によつて開發されれば、大東亞の建設にこれほど役立つことはないでありません。

支那が、外國のあなどりを受けて國が危くなつたとき、いつも日本はこれをかばふやうにして、その獨立と、東洋平和を維持することに力をつくして來たのです。元來支那は廣いため、國內の統一がつかず、昔から亂れがちで、多くの支那人は氣の毒な生活を續け

て來ました。日本は、今これを救はうとしてゐるのです。かうした日本の眞心を解せず、今日なほめざまない一部の支那人は、米英などの力をかりて日本に反抗してゐますが、われわれは、一日も早くこれらの人々をめざめさせて、ともに大東亞の建設に進まなければなりません。しかも、建設はすでに始つてゐるのです。日本の指導で、占據地域は次第によく治り、交通もどんどん發達し、物資も盛んに交換されてゐます。南京には、昭和十五年三月から新しい政府が生れて、日毎に明かるさと力を加へてゐます。

支那の住民 支那は國が廣く、人口も多いので、人々の性質やことばが、地方によつて違つてゐます。

いちばん多いのは漢民族で、そのうちでも北支那に住んでゐるものは、いづばんに勤勉で、ねばり強く、暑さ寒さにかまはずよく働

きます。南支那の人々は、わりあひに明かるい性質で、進取的なところが見られます。

大體からいへば、支那の住民の氣質はいはゆる大陸的で、氣長なところがあり、孝心が深く、祖先を崇拜し、家をよくとのへます。しかし、忠義といふことになると、日本人とはよほど違つてゐます。それは國がらから見て、やむを得ないことかも知れませんが、昔から頼るべき中心人物や、政府がしじゅう變つてゐるので、自分やそのまはりの人たちだけを、まもつて行かうとする考へ方が強くなり、さうして自分のためだけ

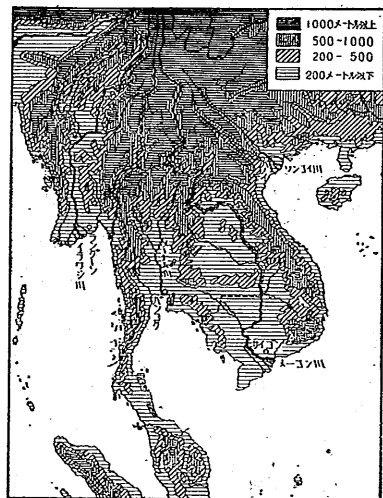


に金銭を貯へようとする考へが、いつぱんを支配してゐます。また自分の顔を立てようとする氣持ちも強いが、その反面に、仕方がないとあきらめてしまふところもあります。

支那は文字の國、宣傳の國で、外交や社交が上手で、なかなか形式や禮儀を重んじます。自分の國を、中國または中華と呼び、現在も國號を中華民國と稱してゐます。最近では、支那の青少年の中にも、日本人と手を取りあつて行かうとするりつぱな人物も出て來るやうになりました。

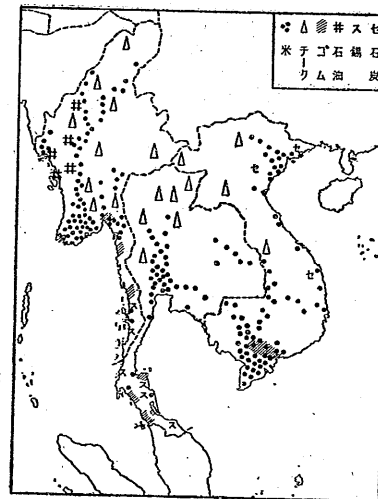
われわれは、さういふ人たちとしつかり手をたづさへて進まなければなりません。それには、支那の國民性や風俗習慣などを、いづそよく理會することが大切です。

八 インド支那



インド支那の地形

インド支那は、アジアの南へ突き出して、太平洋とインド洋とを分けてゐる大きな半島です。支那とインドの間にあることが、インド支那といふ名の起るゆゑんです。大體北から南に山脈が続いてゐて、そのうちのひとつは、南へのびて、マライ半島につながり、その先に昭南島があります。ビルマの西の方の山脈も、皇軍の占領下にあるアンダマン・ニコバルなどの島々に続き、さらにスマトラ方面へ連



インド支那の産業圖

絡してゐます。

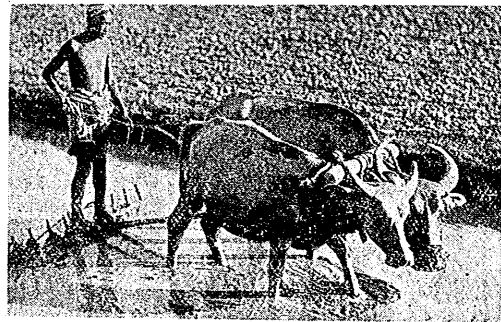
インド支那は、東部地方、中部地方、西部地方の三つに分れ、東部には主にアンナン人やカンボジャ人、中部はタイ人、西部にはビルマ人などが住んでゐます。これらの人々は、最近すべ

ての方面で、日本を力と頼むやうになりました。日本からは、この人々の使ふ日用品を送り、日本へは、米や石油、石炭、その他の物資を送り出します。

南支那よりもさらに南にあるので、いつぱんに熱帯性の氣候をあらはし、ただ山地と平原、北と南などで、氣候に多少の違ひがあり

ます。風の向きが、季節によつて反對となることは、日本や支那と似てゐますが、向きは少し違ひます。すなはち、六月ごろから九月ごろまでは、南西風が吹き、山脈の西側にたくさん雨を降らせて雨季となり、十二月ごろから三月ごろまでは、北東風が吹き、アンナンやマライ半島の東側をのぞく以外は、雨はほとんど降りません。

東部地方 インド支那の東部地方は南北にながく、北部のソンコイ川流域のトンキン地方、東の海岸に沿つたアンナン地方、メーコン川の流域地方の三つに大別されます。この地方の中ほどを北西から南東

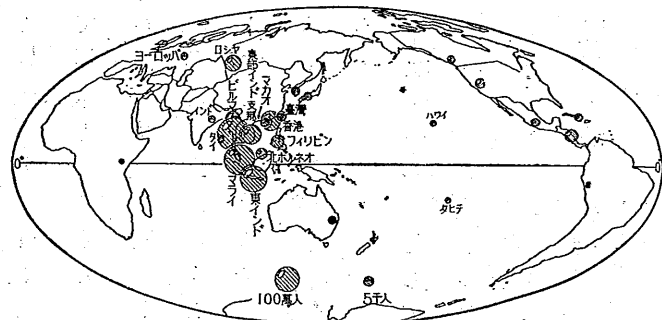


アンナンの水田耕作

へ走る山脈があり、メーコン川はこの山脈の西側を流れて、川口に大きな三角洲を作つてゐます。

この地方は、今から八十年ぐらゐる前から、フランスの勢力がはいつて來ましたが、以前は王が各地を治めてゐました。なかでも、アンナン王は古くから有名で、今もユエの町に住んでゐます。

東部インド支那の米と石炭 水に便利な平地では、米がたいそうよくのります。ソンコイ川、メーコン川などの流域や三角洲は、特に米の産地として有名で、北の米をトンキン米、南の米をサイゴン米といつてゐます。人口のわりあひに米の産額が多いので、わが國を始め支那や、フィリピンなどへも送り出すことができます。住民は、米のほか、たうもろこし、さとうきび、ゴムや、し綿なども作つてゐます。



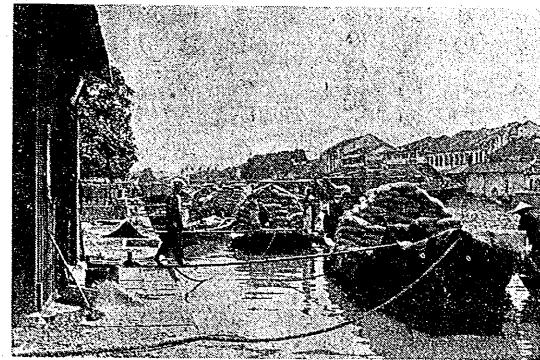
世界に住む華僑
(支那事變前の有様)

トンキン地方のホンゲイは、有名な無煙炭の産地で、わが國へも盛んに送り出します。石炭のほかにも、錫、亜鉛その他の礦物が、地下にたくさんあるらしく、今後日本人の調査で次第に明らかとなるであります。

東部インド支那の住民と町々 この地方に住む約二千五百萬の住民は、皆アジア人で、その大部分のものは佛教を信じてゐます。フランス人は、わづか四萬人ぐらゐしか住んでゐません。大東亞戦争以來、經濟的には日本と全く一體の關係

にあります。日本人は、昔アンナンやカンボジアの各地に渡航して、活躍したことがあります。今後は、他の南方諸地方と同じく、身體が丈夫で、心がけもりつばな日本人が盛んに出かけて、この地方の開発にくすことになるでせう。華僑は四十萬人もゐて、商業方面になかなか勢力があります。

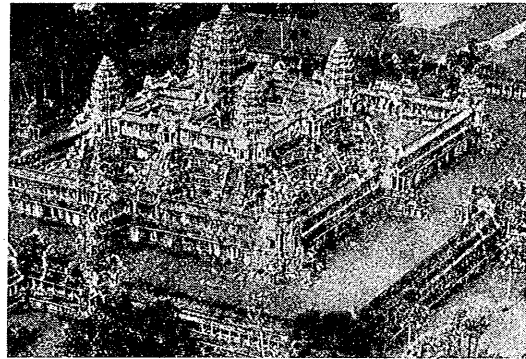
北の中心地として、川の中の島にできたハノイは政治の町で、日本の全權大使や、フランスの總督がゐます。ここから鐵道は北西へ走つて、南支那の昆明へ達し、一方海の出入口としては、外港、ハイフオ



サイゴン米の積み出し

ンがあります。南方商業の中心地であるサイゴンは、メーコン川の支流にのぞむ川の港で、航空の方面から見ても大切な位置を占めてゐます。

サイゴンの南西五キロのところに、華僑の作つた米の町シロンがあります。ハノイとサイゴンの間には、アンナンの海岸線に沿ふ鐵道があつて、急行列車で約四十時間かかります。途中いたるところに水田があり、やしや竹やぶのよく茂つた部落が、ところどころに見られます。要港カムラン灣は、南東の海岸に



アンコールワット

あります。カンボジアの西の方には、有名なアンコールワットの遺

跡があり、將來は見學の人々も次第に多くなることでせう。

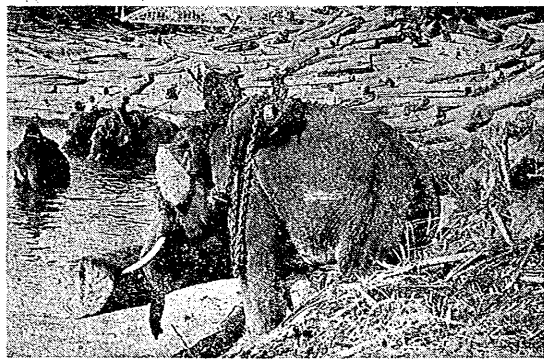
中部地方 インド支那の中部地方は、すなはちタイ國で、もとシャムといはれ、三百二十年ばかり前、シャム王をたすけて日本の名をあげた山田長政などによつて、わが國では昔から親しまれてゐました。

タイ國は、その真中を流れる水量の豊かなメナム川の流域、その東側の高原地帯、西側のビルマ境の山脈地方、マライ半島の北部などに分けて見ることが出来ます。大きさは六十四萬方キロで、わが國より少しせまいぐらゐです。南部のマライ半島の部分をのぞくと、ひとかたまりのまとまつた國土をなしてゐます。

タイの米、チーク、錫 タイのいちばん大切な産物は、米とチークと錫で、米はタイの輸出の大部分を占め、わが國へもかなりたくさん

送り出してゐます。現在は、一年に一回だけしか作らない水田が多いのですが、水利と作り方を工夫すれば、まだまだたくさんよい米が取れるであります。綿の栽培も、將來有望とされてゐます。

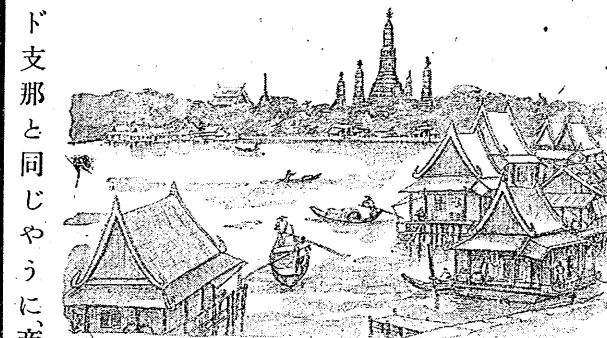
チークは、この國の七割を占める森林地から伐り出されます。この大きな重い材木のうんぱんには、名物の象がよく使はれます。雨季には、特にたくさんのもがメナム川の上流から流されます。錫は半島方面の地下にたくさんありますが、マライにくらべると、まだ掘り出すことが盛んでありません。



タイの象

タイの住民

タイ國の人口は一千六百萬ぐらゐるで、大部分のものは早くから佛教を信じ、慈悲心が深く、いつばんに溫和で人にも親切です。昔からタイ人としてよくまとまり、英國やフランスの勢力の間にはさまつて、國を持ちこたへてきました。



ド支那と同じやうに、商業を盛んに營んでゐます。

大東亞戰爭が始まると、いち早くわが國と力を合はせ、やがて兩國間に特別の固い同盟が結ばれ、わが國の指導で大東亞の建設に努力してゐます。ここにも非常にたくさんな華僑がゐて、東部イン

たくさんさんのきれいな寺院のあるバンコクは、この國の中心地で、タイの輿地と、マライ半島方面への鐵道が通じてゐます。また、以前から南方諸地方の國際航空路の中心をなしてゐました。市中央を流れるメナム川の川べりには、床の高い涼しさうな家が見られ、水上に生活する人々も少くありません。

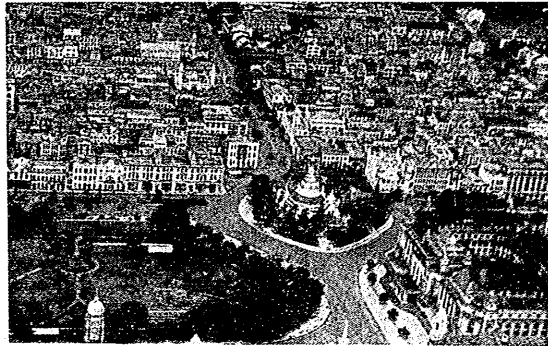
川々には、上に家を組み立てた筏の浮き家がたくさんみられ、市場を作つてゐるものもあります。水のふえる時期には、特に舟のゆききが盛んです。

バンコクの北百キロぐらゐるところに、アユチャの町があり、昔日本人がたくさん住んで、日本町を作つてゐました。この町の近くに、長政とその子がまつられてゐます。

西部地方 タイの西、インド支那の西部地方をなすのがビルマ

です。この地方の眞中を、北から南に流れてゐるイラワジ川の流域と三角洲が、ビルマの最も大切な部分であります。しかもこの川は、川口から上流約千六百キロまで、汽船でのぼることがができます。

北東部には、七八月ごろでも涼しいシャン高原があつて、谷は深い、全體として平らな高原をなし、將來はよい農業地となるであらうと思はれます。タイや支那との間にも、またインドとの間にも高い山脈があつて、各方面への交通は不便です。

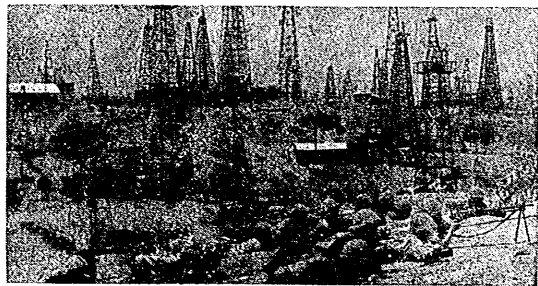


ラングーンの市街

ビルマの米と石油 ビルマは農業國で、米がたくさんでき、いはゆるラングーン米として、わが國へほとんど送り出されます。大東亞戦争以前は、インドへも盛んに出してゐました。

石油は、この國の大切な資源で、イラワジ川の中流各地に油田があり、これまで一年約百十萬トンを生出してゐました。このほかタングステン、銅、鉛、亜鉛などの礦物や、チーク、綿ゴムなども産します。

支那への通路とビルマの住民 ラングーンから自動車、汽車、船などで奥地まではいり、さらに支那へ通ふ路があつて、これによつて米、英の物資が支那へ送ら



ビルマの油田

れたこともありますが、わが軍の占領以來、この道はとまつてしまひました。

ビルマの人口は約一千六百萬あまりで、その大部分はタイ人と同じく佛教を信じ、男は一生に一度は僧となる習慣があります。今ビルマの人々は、みづから進んでわが國と力を合せ、大東亞の建設に努力してゐます。米の港ラングーンは水運に恵まれ、町の中にはところどころに大きな佛塔が見られます。ビルマの中央部にあるマンダレーは、交通の要地です。

九 インドとインド洋

インドはアジア大陸の南西、インド洋に突き出てゐる大きな半島で、面積はわが國の六倍もあります。インド洋の北は、このため東のベンガル灣と、西のアラビア海とに分けられてゐます。

地圖で見ると、インドは、大體次の三つの部分から成つてゐるものとわかります。南の三角形の部分、占めるデカン高原、北のヒマラヤ山脈地帯、及びこの二つの間のインド平野がそれです。このうちでいちばん大切なのは、インド平野で、東のガンジス川流域と、西のインダス川流域から成り、それがひと続きになつ

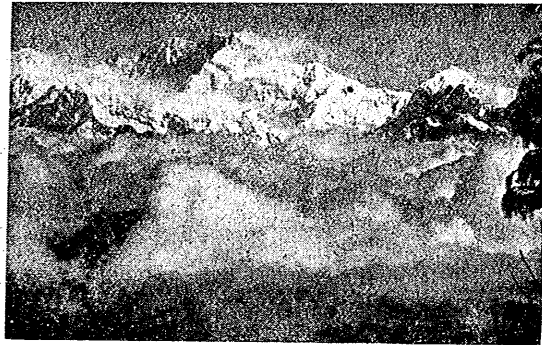


世界の山の比較

てゐます。ガンジス川の下流には低湿な部分がひろがり、川口には大きな三角洲が見られます。インド

ス川の上流は、五つの川にわかれて五河地方と呼ばれ、中流附近の東部一帯は、沙漠になつてゐます。

デカン高原は古い堅い岩石の高原で、北西部には熔岩でできた土地があり、西端にこの高原中のいちばん高いところが續いてゐます。臺灣の二倍ぐらゐるセーロン島は、インドの南東端に近いところにあつて、インド洋北部の要地となしてゐます。千古の雪をいただくヒマラヤ山脈は、インドとチ

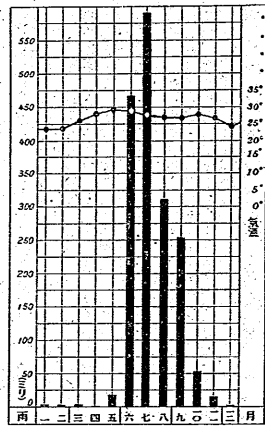


ヒマラヤの山々

ベットの間に、ほぼ東西に長く、天をくぎつてそびえてゐます。中でも世界の最高峯エベレスト、また氷河で名高いカンチンジンガは、群を抜いて高く、ダージリンから望む山々の雄大な眺めは、まことにすばらしいものです。インドの北東は、ビルマと山脈でへだてられ、北西にはインダス川流域を越えて、イラン高原の續きの山地があります。

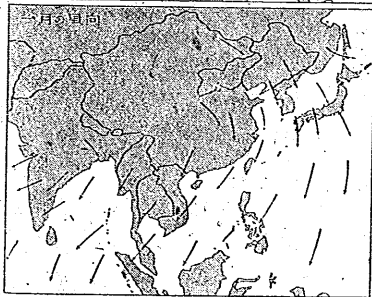
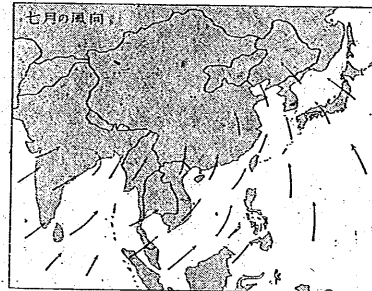
はげしい季節風 インドほどはげしい季節風の吹くところは、世界に例がありません。風の向きは

インド支那と同じく、六月ごろから九月ごろまで、南西の風が吹き續き、インドの大部分にたくさん雨を降らせ、たとへばボンベールで



ボンベールの氣候表

は五月にわづか二十ミリの雨しか降らないのに、六月には五百ミリ近くも降るのです。この雨が何かのぐあひで少しでもおくれると、それを待ちかねてゐる作物は、たちまちその成長をさまたげられます。綿を始め、茶さとうきび米なども、皆そのえいきやうをかうむります。いちばん雨の多いのは、インドの北東部にあるアッサム地方で、ちやうど夏の雨を受けるに都合のよい山の南側の斜面になつてゐますから、雨の多いことは世界一といはれてゐます。一二月ごろはインド支那と同じく北東風で、陸から吹く乾いた風ですから、インドの大部分ほとんど雨が降らず、ただセーロン島の東側や、マドラス附近のベンガル灣にのぞんだ部分に、少し降るだけです。

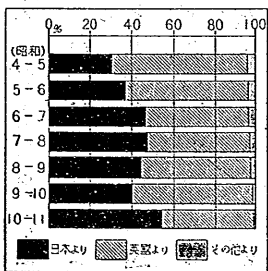


東亞の季節風

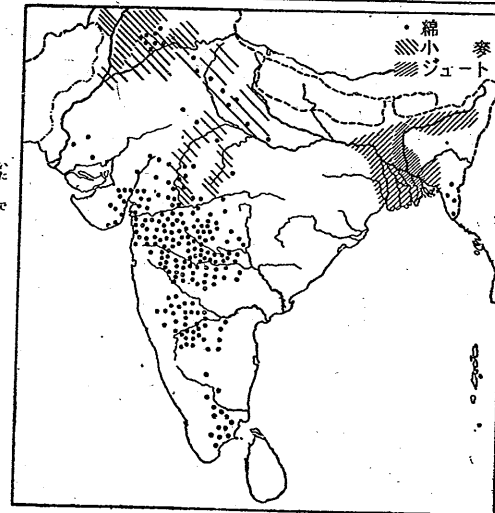
アジヤの東側の日本を始め、滿洲支那・インド支那など、各地ともかうした季節風に見まはれてゐますが、インドではそれがいちばんはげしいのです。この季節風は、東亞共通の現象であり、東亞の人たちはこの風によつて育ち、この風によつて生活してゐるといつてよいぐらゐです。

綿・ジュー・ト・鐵 季節風の雨によつて生育す

るインドの綿は、米國に次いで世界第二の産額を示してゐます。かつてわが國は、ここからたくさんの綿を買ひ入れ、それを綿絲と



インドへはいる綿布のわりあひ



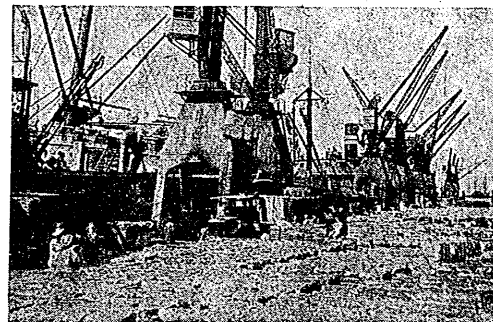
綿・小麦・ジュートの分布

し、綿布に織つてインドへ再び輸出し、その量も一時は英國からはいるものをしのぐほどでした。そこで英國は日本の品物にするぶん高い關稅をかけ、日本にも、またインド人自身にも、迷惑をかけるやうに仕向けました。これに對し、日本ではやむをえず、インドの綿を買はないことにしたこともありましたが、それがまた綿を作つてゐるインドの農民に痛手を與へることになり、いつそう英國をうらむやうになりました。かうしたことだけでも、どんなに日本とインドとの

關係が深いかがわかるのです。

分布圖でわかるやうに、綿は、デカン高原の北西部を中心として取れますが、この地方は火山質の黒い土からなつてゐるので、それをあらかじめ耕しておいて、六月の雨を待つて種をまきます。この土は、水分をよくふくむので、綿はりつぱに育ちます。作られた綿は、ボンベーから、日本や英國へ送られてゐました。ボンベーには、日本人の紡績工場もあつたほどです。

綿のほか、小麦、さとうきび、ジュート、菜種、米、阿片など、農業國インドにふさはしい産出を見るのですが、この



ボンベーの綿の積み出し

うちインドを代表するものの一つは、ジュートです。これは、ガンジ



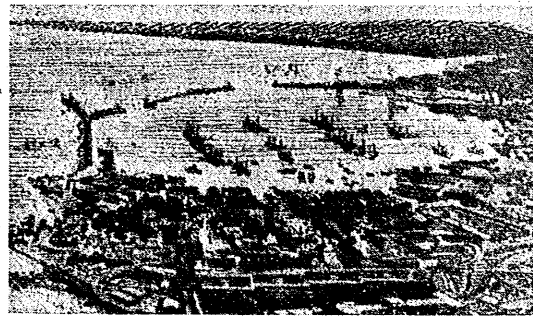
カルカッタ

以前からビルマの米や、ジャワのさたうを買ひ入れてゐました。

ス川下流低地などのやうに、夏の間水の絶えない、暑いところにかぎつて生育する作物で、世界でもあまり例のない特産物です。日本で南京袋といつてゐる袋の原料となり、そのほか織物や、製紙の原料にも使はれます。ジュートは、これまでインド平野の入口の港カルカッタから、盛んに海外へ送り出されてゐました。米やさたうきびは、産額が少くありませんが、インド人の食糧としてはまだ不足で、

茶は雨の多いアッサム地方や、セーロン島の傾斜地によくでき、セ

ーロン島で産するものは、コロンボの港から海外へ送り出されます。小麥は、比較的涼しくて雨の少い五河地方から、ガンジス川上流にある首府のデリー附近一帯が主産地です。ヒマラヤの雪どけの水を引いて作るのが多く、冬から春の間に育ちます。鑛産物としては、石炭、鐵、マンガンなどが知られてゐます。鐵鑛は各地から産出し、もと日本へも盛んに送り出されてゐました。英國は、以前から本國のものを賣りつけるため、インドの工業の發達することを喜ばなかつたのですが、



コロンボ

最近では綿や鐵を利用して、工業が興つてゐます。

英國とインドの住民 以上のやうに、インドは物産が豊かであるのに、インド人の多數は實にまづしい生活をして來ました。それといふのも、インドが百二三十年前から、全く英國の支配を受けるやうになつたからです。三億八千萬のインド人は、わづか二十萬たらずの英國人によつて治められてゐるのです。

インドは、佛教の起つたところで、釋迦は今から二千六百年ぐらゐる前に生れ、ガンジス川の流域地方に住む、當時のインド人の心を救ひました。しかし現在では佛教を信じるものがわりあひ少く、大部分は、インド教徒と回教徒であります。英國はこれらの教徒をお互に反目させるやうにし、またインド内の王のゐる土地と、英國の直接治める土地との二つをも仲たがひさせて、インドの獨立をさまたげようとしてゐたのです。

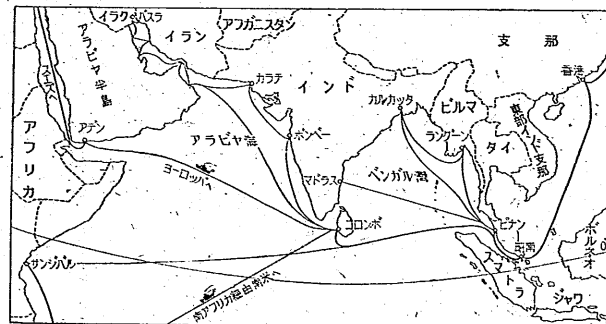


アンダマン島の敵前上陸

かうしたあはれなインド人にも、今こそ立ちあがる時が來たのです。大東亞の建設は、すべてのアジア人をしてそのところを得させることを目標としてゐます。われわれも、そのために將來ますます努力しなければなりません。

インド洋 インド洋は、太平洋、大西洋に次ぐ世界第三の大きな海で、東は太平洋に連なり、北西は紅海、スエズ運河を越えて地中海へ連絡し、南西は、アフリカと喜望峰をめぐつて大西洋へも續いてゐます。太平洋や大西洋と

の違ひは、ただ北の方がアジャ大陸でくぎられてゐて、赤道以北はわづかしかないことです。インド洋は、インドを始め濠洲、アフリカの東岸など、英國の領土で大部分取りまかれてゐました。それをまもるため、英國はセーロン島のコロンボ、ツリンコマリ、アラビヤ半島南端のアデン、濠洲のダーウィン、南アフリカのケープタウンなどに、海軍の基地をかためてゐました。日本の占領した昭南港は、そのうちのいちばん大切なものでした。インド洋の南西にあるマダガスカルは、日本全體より少し小さいぐらゐの大島で、軍事上から特に大切です。



わがインド洋航路

日本の汽船は、戦争前はげしい季節風の吹く、波風の荒いインド洋を乗り越えて、盛んにヨーロッパやアフリカと交通してゐました。中にはインド洋を斜に横切つて南米へ通ふ船もありました。またわが漁船も遠くこの方面へも進出してゐたほです。大東亞戦争で、インド洋北東部の島々をわが軍が占領してからは、情勢が變り、わが海軍はここへ堂々と乗り出して力強く活躍を續けてゐます。

十 西アジアと中アジア

アジア大陸の西部にある西アジアは、ヨーロッパ・アフリカに隣り合つてゐる地方です。この地方は、インドの北西部のアフガニスタン・イラン・イラク・アラビヤ半島、西方のトルコ・コーカシヤ、その他の國々から成つてゐます。

英國は、地中海を越え、スエズ運河を通り、アデンを経て、インドをまもるために、米國とともに、この地方とは最近特に深い關係を結んでゐます。ロシアはまた、北から海を求めてインド洋へ出るために、アフガニスタンからインドをうかがひ、イランへ侵入してゐます。ドイツやイタリヤも、またこの地方に特別の關心を持つてゐます。

わが國は、もとこの地方へ綿布をたくさん輸出してゐましたし、今やインド洋へ進出してゐる關係からいつても、この地方をゆるがせにすることはできません。



教徒の回りと泉

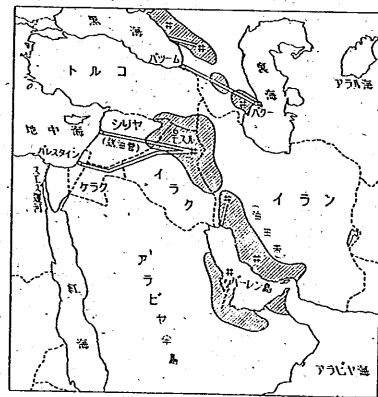
西アジアの北東部にあつて、内陸の大きな平原をなす地方が中アジアで、ここは全くロシアの一部であります。

高原と暑い沙漠 西アジアは、歴史上早くから開けたメソポタミヤ平原をのぞくと、いつぱんに高原で、内陸部は、夏、特に暑く、雨が少く、大部分は沙漠となつてゐます。高原の草地では、わづかに羊や山羊が飼はれ、沙漠の中

では、稀にある水のわき出る泉地の附近で、少しばかり農業が営まれてゐます。泉地には、普通なつめやしが茂つてゐるので、遠方からそれがわかります。らくだに乗つた隊商は、泉地から泉地への旅を続け、近ごろは自動車も盛んに利用されてゐます。

アフガニスタンは、インドと口領にはさまれた國で、首府はカブールです。

イランのものと名はペルシヤで、首府のテヘランからペルシヤ灣へ通じる鐵道があります。この國の南部や、南西部からイラクにかけては、有名な石油の産地があり、送油管が沙漠を走つて、ペルシヤ灣へも、また遠く地中海へも達してゐます。



西アジアの油田

チグリス川の中流に、バグダード鐵道の通るバグダードがあり、近くにバビロンの遺跡があります。下流にあるバスラは、ペルシ

ヤ灣へ出る要地で、上流附近のモスルは、イラク方面の油田の中心地です。

黒海と地中海にはさまれた、小アジア半島の高原國トルコは、産業はあまり發達してゐませんが、亞歐を連絡する政治上大切な地方をなし、内陸には首府アンカラがあります。

地中海にのぞむシリヤ地方ではオリブ、ぶどう、いちぢく、みかんなどを産し、その



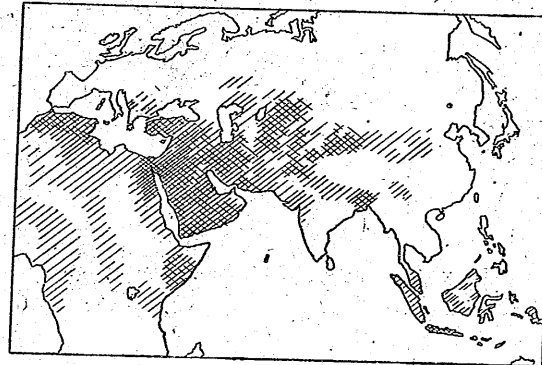
南方のパレスティンはユダヤ人の郷土です。

大きな高原状のアラビヤ半島は、アフリカとスエズ運河で接し

てゐます。紅海にのぞむ高原の中にメッカ、メジナがあり、南端には要地アデンがあります。

コーカシヤでは、コーカサス山脈の北側にも南側にも、方々に油田があつて、バクーは特に有名です。

中アジアの草原、東は支那の山地とパミル高原、南は西アジアの高原にかこまれた中アジアは、すべての川が海への出口を持つてゐません。雨がほとんど降らないので、草原と沙漠が續き、トルコ人がところどころで草地

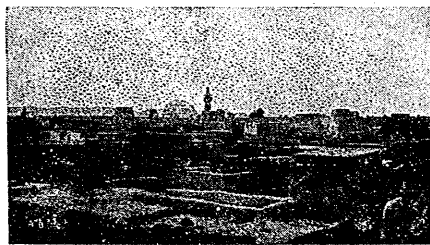


回教徒の分布

を追つて、羊や山羊を飼ひ、また川のふちで引き水をして、綿や小麦などを栽培してゐるものもあります。東部の高い山地から流れ出る川をせきとめて、水力電氣をおこし、これを利用して、最近ロシアは工業を盛んに興してゐます。

この地方は、昔から天山南北路を通じて、東亞とヨーロッパとの通路に當つてゐました。

回教徒、西アジアと中アジアに住む人々は、みんなアジア人で、回教を信じてゐます。回教は、今から千三百餘年前、アラビヤ半島の西部に起つた宗教で、マホメットが始めたので、マホメット教ともいひます。沙漠的な美しいところのある宗教です。世界中には、およそ三



アラビヤの町

億の回教徒があるといはれます。

この地方の町や部落には、きまつたやうに尖つた高い塔と、丸屋根の回教寺院が見られ、毎金曜日には、いつも回教徒の熱心な禮拜が行はれます。回教徒は、わが國から買ひ入れた白色の布を用ひ、ふつう裾の長い衣服を着てゐます。いづばんに煉瓦かしつくひの家が多く、屋根は雨が少いたため平なものや、回教式の丸いものが見られます。

この地方はまたキリスト教の起つたところで、地中海に近いエルサレムは、キリストの聖地であります。

十一 シベリヤ

滿洲とわが國の北邊一帯に、ひろがつてゐるシベリヤは、わが國の約十八倍の大きさがありますが、その大部分は北緯五十度より北にあつて、樺太や北滿などよりも、もつと寒冷な地方です。今から三百年ぐらゐる前、ロシヤ人は、ウラル山脈を越えて、この地方一帯へやつて來ました。

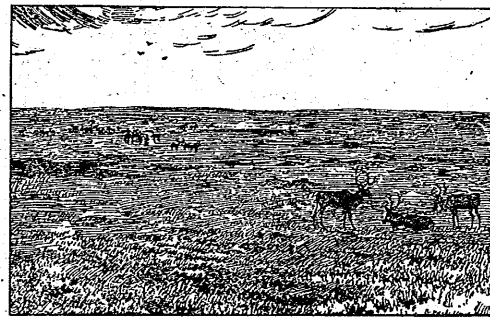
この地方に住むロシヤ人の一部は、黒龍江の流域や、シベリヤ西方のオビ川、エニセ川などの上流に近い平原で、夏の間の少し高くなる氣溫と、日の長いのを利用して、小麥、燕麥、じゃがいも、甜菜などを作つてゐます。



いつぱんに、冬は壁の中へ火氣をとちこめて部屋を暖めるペチカで、やつと寒さをしのいでゐる。

シベリヤには、針葉樹やしらかばを主とする廣い森林地帯があるので、それから伐り出す木材によつて、燃料には少しも不自由をしません。従つて、パルプの原料も、無盡藏といつてよいほどです。また森林地帯にすむきつねやてんなどの毛皮は、この地方の人々のよい防寒具になります。

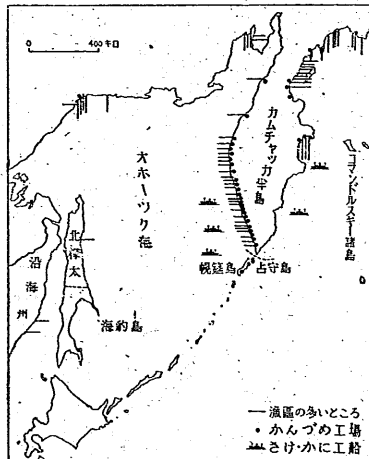
一方シベリヤの北部、北極海にのぞむ一帯の地域は、ツンドラ帯と呼ばれて、樹木も生えず、一年中地下は凍つてゐる。ただその一部は、夏の間だけ地面に苔が生え、それで



ツンドラとなかい

となかいが飼はれます。主な川は、北の方へ流れてゐますが、下流はツンドラ帯にあるので、水はうまくはけません。北極海では、夏のある期間だけ氷がとけるので、船もベーリング海峽を越えて、太平洋から大西洋へ抜けられるのです。

わが北洋漁業と北樺太の石油、石炭 日本海の北部からオホーツク海、ベーリング海へかけて行はれる、いはゆる北洋漁業は、わが國が早くからその一部漁場を開いたのであり、特に日露戦役の勝利によつて、始めて全體の權益が確實になつたものです。毎年四月から九月末までの漁期には、約



わが北洋の漁場

四萬人のわが漁夫たちは、遠く離れた北洋へ進出し、濃霧や風波や、その他あらゆる困難とたたかひながら勇ましく活動します。か



たらばがにとかれひ

うしてたくさんのおさけます。たらばがに、たらばがになどを取り、中でもさけや、たらばがにには、船の中、または千島列島の北部の占守嶺などの島々や、カムチャッカ半島の海岸などで、かんづめに作ります。北樺太は、北緯五十度を境として、わが南樺太と接してありますが、ひとしく針葉樹林の続く景色から見ただけでも、南北の區別はなく、全くひと続きをなす地方であることがわかります。また、樺太と間宮海峡をへだてて相

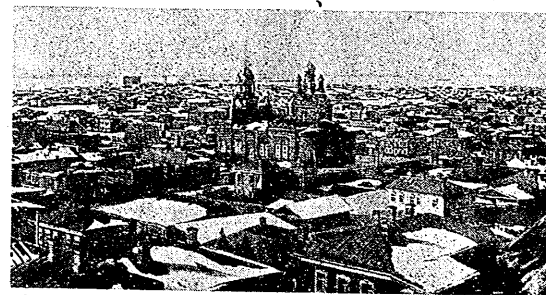
對してある沿海州一帯も、森林の多い地方であります。

北樺太には、わが國と關係の深い油田や炭田があります。東海岸のオハヤ、カタングリなどを中心とする油田から、わが會社の手によつて、年約二十萬トン以上の石油が採取され、また西海岸のドウエを中心とする炭田から、多くの石炭が、やはりわが國人の手によつて掘り出されてゐることがあります。

日・滿・ロの國境 ロシヤは、滿洲國の北半の國境をぐるりと取りまいてをり、また南東の方面では、わが朝鮮と直接境を接してゐます。それらの國境は、すでに滿洲のところでしらべたやうに、おほよそ川で境されてゐますが、それらは水の流れが移動しやすく、また外蒙古との境は、はつきりと區別のつきにくい荒野などで接してゐるのです。またロシヤの太平洋艦隊の根據地であり、飛行基

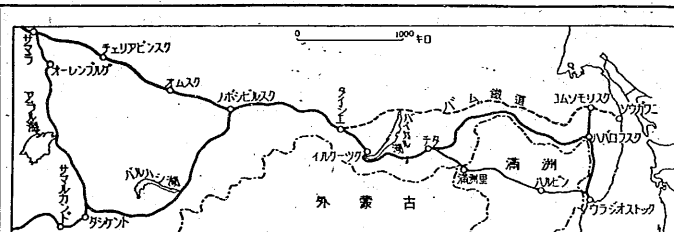
地であるウラジオストックは、日本海をへだてて、わが國へひとまたぎのところにあつて、東京とはわづかに一千キロあまり、飛行機で三時間ぐらゐしか離れてをりません。

シベリヤ鐵道 ウラジオストックを發し、ハバロフスク・チタ・イルクーツクなどを通つて、はるかにヨーロッパへ達する鐵道を、ふつうシベリヤ鐵道と呼んでゐます。日本からは、朝鮮滿洲の町々を通り、北西國境の滿洲里でこれに連絡し、かつては旅行も物資輸送も自由に行はれてゐました。



ウラジオストック

地圖でわかるやうにシベリヤ鐵道や黒龍江などに沿つて、主な



町々があり、特に工業地としては、バイカル湖の南西にあるイルクーツクや、黒龍江の下流に近いハバロフスク・コムソモリスクなどが有名です。黒龍江は冬の間凍りますが、あとは水運も便利で、海鐵の出口としてニコライエフスクがあります。シベリヤ鐵道附近の山地には、金銀、鐵、石炭など、りもたくさんあるもやうです。また西方のオビ川のの上流に近いノボシビルスクやスターリンスク方面では、附近から産する鐵や石炭を利用して、重工業が盛んに行はれてゐます。最近ではシベリヤ鐵道の北方を通るバム鐵道が計畫され、その一部はすでにできあがつてゐます。

十二 太平洋とその島々

北は霧とあらしのベールリング海から、珊瑚礁の浮かぶ熱帯の海を越えて、さらに氷にとざされる南極海まで、西はアジア大陸から東は南北アメリカまで、この間にはさまれた太平洋は、地球の表面の三分の一を占め、大西洋の二倍もある廣さです。

この大きな太平洋の中に、數へ切れないほどの島々が、空の星のやうに散らばつてゐます。西南太平洋の大きな島々を始め、水面に見えかくれする珊瑚礁から、三千メートル以上の高さを持つ島島まで、いろいろの種類の島がこの大海に抱かれてゐます。

島々には、はなればなれの生活をして、ふしぎな風俗や習慣をもつ住民があるかと思ふと、舟といふ便利な交通機關で結ばれ、思は

ぬところには思はぬ親類のやうな住民を見ることがあります。中



珊瑚礁の島とまるき舟

には、まだみつかからない、いはゆる無人島さへあるだらうと思はれます。

いかに小さい島でも、それが要所に當つてゐれば、軍事上交通上非常に大切で、或ひは飛行機潜水艦の基地となりますから、各國は早くからさうした島々をゆるがせにしました。わが國は、歐洲大戰後、南洋群島を治めてゐますが、それは太平洋上に日本の力をのばす上からいつて、極めて大切なことでした。

霧のアリコーシャン

太平洋の北の端にあるベールリング海をくぎ

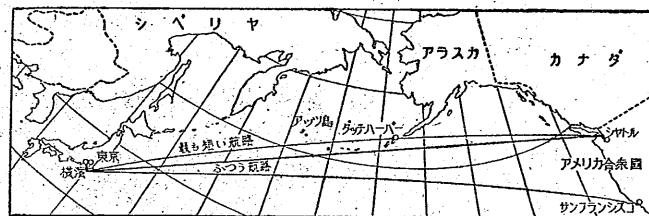
りながら、アジアとアメリカとの間に、じゆずのやうにつながつてゐるのが、アリューシャン列島です。この列島は、多くの火山の島々からできてゐて、わが千島列島とよく似てゐます。列島の南方を黒潮が流れ、北のベーリング海の冷い空氣と、黒潮に乗つて來る暖い空氣が、ちやうどこの列島附近で出あふのでは、げしい濃霧すなはちガスが発生して、この列島を包みます。このため、空氣はひえびえとして、ほとんど樹木の生育を許しません。四季を通じて曇りが多く、夏は濃霧にとざされ、冬ははげしい西風の吹くのがこの地方の氣候上の特色です。でも、毎年四月を過ぎると次第に晝間が長くなり、五月にはアリューシャン續きのアラスカのユーコン川の氷もとけ始め、六月から九月までは、濃霧にとざされながらもどうやら船の航行ができるのです。



ダッチハーバーの爆撃

この地方は、東亞に對する米國の北の進攻路に當つてをり、最近しきりにその備へをしてゐましたので、昭和十七年六月、雪どけを待つて、わが軍は列島の中のアツキスカの二島を攻略し、さらに有力な敵の根據地ダッチハーバーを爆撃しました。この列島附近は、地圖でわかるやうに、北太平洋の大切な航路に當つてゐます。すなはち、横濱シヤトル間のいちばん短い道すぢに當るのです。

島々には一千人たらずの住民が住んでゐて、海ではあしかやさけを取り、陸ではきつねなどを飼ひ、また



アリューシャン列島近くの航路

一部ではとなくいを飼つて生活してゐます。元
來北洋一帯は水産業の寶庫といはれ、さけたら
始め、魚類や海獣が非常に豊かですから、わが北洋
漁業は、今後この地方でもいつそう進展し、すぐれ
た漁法によつて盛んに漁獲するやうになること
と思はれます。

ハワイとミッドウェー 昭和十六年十二月八日の
あけがた、突然真珠灣の大爆撃が敢行され、大東亞
戦争の幕が切つて落されました。ハワイ諸島は、
太平洋上の重大な位置を占めてゐます。横濱か
らホノルルまでは三千四百海里、すなはち六千三
百キロ、ホノルルから米國のサンフランシスコま

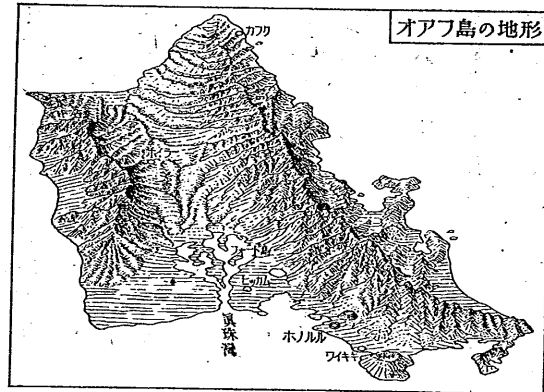
では約二千百海里、また濠洲のシドニーまでは四千四百海里、ハ
マ運河までは四千七百海里あつて、ハ
ワイはちやうど太平洋上の十字路に當つ
てゐます。米國は戦前、その大艦隊をこ
こに集めて、東亞をうかがつてゐました
が、わが勇敢な海軍の前にはひとたまり
もなく、一舉にしてほとんど撃滅されて
しまつたのです。

ハワイの島々は北回歸線より少し南
にあつて、貿易風がたえず吹き、雨も適度
でわりあひに涼しく、四季を通じて初夏
のやうな氣候です。火山島で地味もよいた
め、さたうきびやパイ



真珠灣の攻撃

ナップルを産出します。



島と見ることができのす。オアフ島の南東にあるハワイ島

は、いちばん大きな島で、農業が行はれ、島内には四千メートルを越える高い火山が二つもあり、いつも熔岩を噴き出してゐる火山もあるので有名です。

ミッドウェーは、ハワイ諸島の西にあります。直径約十キロのまるい珊瑚礁の中に二つの島があり、もとから海底電線の通つてゐるところでしたが、その後アメリカ海軍の基地として、大島島グアムマニラなど、わが軍にいち早く占領された基地と連絡する大切な場所でした。わが海軍は、しばしばこの島をも爆撃してゐます。

サモアとフィジー　ハワイ諸島の西方や南方に散らばつてゐる無数の小さな島々のうちには、たくさん大切な島があつて、わが海軍の爆撃を受けたものも少くありません。殊に赤道より南方にあつて、米本土と濠洲やニューギランドを連絡する道すぢにあ

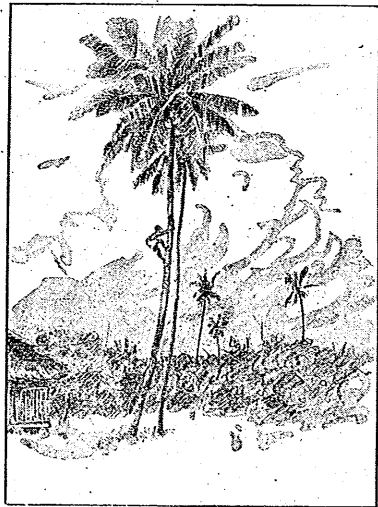
るサモアやフィジーなどの島々は、海底電線が通り、航路に當つてゐることから見ても、すぐ重要であることに氣がつくでせう。

サモア諸島は十數個の小島が集合し、ココやしやパンの木でうつまつた、南太平洋上の美しい島々の一つです。

この島々の住民の中には、くらやみには魔物がすんでゐると信じ、それを恐れるあまり、夜中でもあかりをつけ通しにしてゐるものもあります。島々のなかほどにあつて、ニュージールランドの治めてゐるアピヤ港は、以前から米濠間の航路に當つてをり、またパゴパゴは米國海軍根據地の一つです。

サモア諸島の南西にあるフィジー諸島は、大小二百數十の島々から成り、わりあひ大きなビチレブ島にあるスバは特に要地で、珊瑚礁の内側は波の静かな良港です。もとは食人の風習をもつ住民でしたが、英國人が来るやうになつて、いろいろの病氣に感染して人口はどんどんへりました。はしかのため、一度に數萬の人々が死んだこともあります。

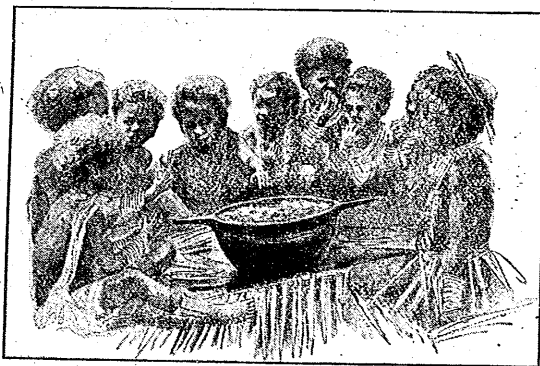
サモア諸島の南東には、タヒチ島のあるソシエテ諸島やクック諸島があるし、わが南洋群島の南東に近く、ギルバート諸島、オーシャン島、ナウル島などがあります。オーシャン島、ナウル島はアンガウル島と同じやうに、燐礦が取れるので有名です。ナウル島の南西には、度々そのソロモン海戦で名高いソロモン諸島が、北西から南東



タヒチ島の住民とやし

へ續いてゐます。

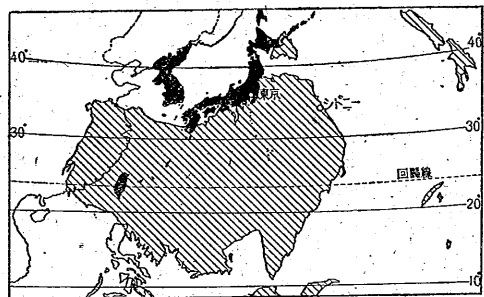
ニッケルの島 ニューカレドニア フィジー
諸島と濠洲の間にあつて、四國より少し
大きい島が、ニューカレドニアです。この
島には、ニッケル・クロム鐵が産出し、何れ
も前からわが國へ送り出されてゐまし
た。ニッケルは特に有名で、カナダに次ぎ
世界第二の産地です。この鑛山に働く
ため、ここへ渡つて來たわが國の人たち
が一時は千數百名にのぼり、のちには商
業、農業など、各方面に働いてゐました。
フランスはこの島へ罪人
を送り、それらの子孫も數百人にのぼつてゐます。島の南端にあ



ソロモン諸島の子供たち

るヌーメヤは良港です。ニューカレドニアとフィジー諸島との間には、ソロモン諸島に續くニューヘブライズ諸島があります。

羊毛と小麥の濠洲



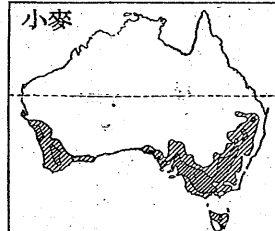
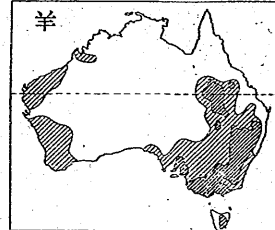
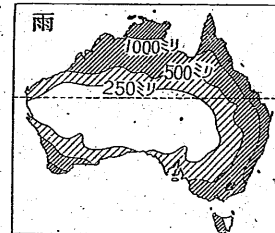
日本と濠洲の重ね合せ

濠洲は、日本とは、赤道をへだてた南側の端にあつて日本と似た位置にあります。日本と濠洲とをくらべて見るため、これを重ね合わせるには、圖のやうに濠洲をさかさまにしなければなりません。わが國では、南方の臺灣が氣候において亞熱帶性をあらはしてゐるのに、濠洲では反對に、北ほど熱帶性なのです。それで東京とシドニーは、同じぐらの緯度にあつて、どちらも氣候のよいことがわかります。

濠洲は、大きさがわが國の十一倍もありますが、人口はわづか七百萬で、東京市ぐらゐるしかありません。以前から住んでゐた住民は、百萬人もあつたのが、百年あまりの間に五萬人ばかりにへつてしまひました。これは、本國から流されて來た英國人やその子孫が、住民をいぢめ、するぶんさんくなく仕打をしたからです。

濠洲の北部一帯には熱帶多雨の地方があるし、中央から西部へかけては沙漠があつて、英國人が住むのに適しない部分が廣いのです。しかしさういふ地域へも、從來はアジヤ人を決して入れようとはせず、いはゆる白濠洲といつて、英國人以外には全く門戸をとざしてゐる有様です。その中に二千人ばかりの日本人がゐるのは、木曜島などで行はれる眞珠貝の採取に、どうしても日本人が必要だからで、これも勝手な口實で許してゐるに過ぎません。

濠洲は世界一の羊毛の産地です。メリノ種の羊が多く、これは元來乾燥地に適し、濕氣が多かつたり、雨量も年千ミリ以上あつたりする土地では病氣になります。しかもあまり雨量のないところ、例へば五百ミリ以下では牧草がよく育ちませんから、飼ふのに不便となります。濠洲の東部にある山脈の西側のゆるい傾斜地は、雨がちやうど六七百ミリぐらゐる降るので、この羊を飼ふにはまことに絶好の地です。それでも、年によつて雨のごく少い時には、



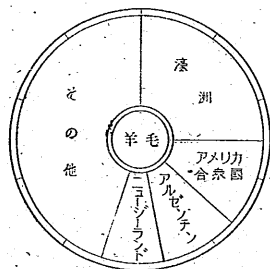
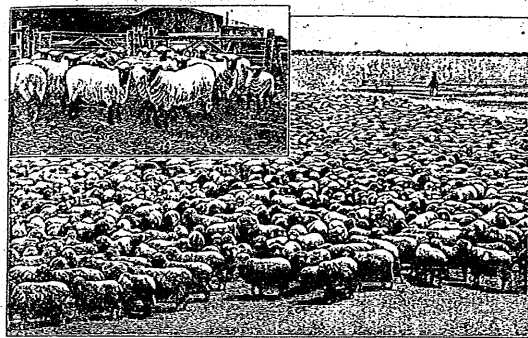
濠洲の雨・羊・牛・小麦

羊がたふれることもあります。また牧草を食ひつくす野兎も、羊の敵として恐れられて

るます。そこで、雨の少い地方では盛んに掘抜き井戸を掘り、ま

た野兎のためには、ところにより地上地下とも各々約一メートルぐらゐるの金網を、長々と張りめぐらして防いでるます。

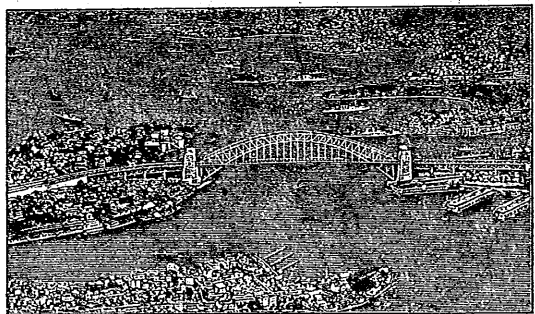
牛も世界的に有名な産地ですが、これは少しぐらゐる暑い地方でも、また雨の多い地方でも、飼ふことができます。小麥の分布がわづかに南部の地方にかぎられてゐる



羊毛のわりあひ

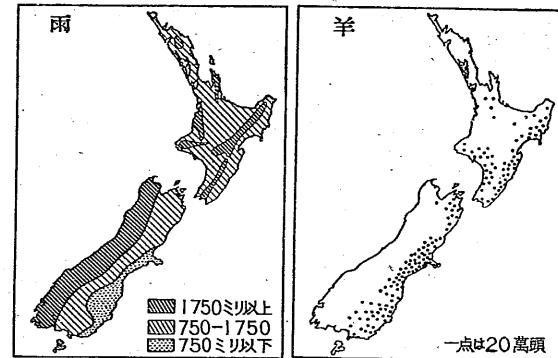
のは、北滿と似て雨の少い温帯に適するからです。かうして産出する羊毛・牛皮・小麥などは、主として英本國へ送り出され、かつては日本へもたくさん輸出されてゐました。濠洲にはこのほか金・石炭・亜鉛・鉛なども産出します。

東海岸にはシドニー・ニューカッスル・ブリスベーン・タウンズビルなどの都市が並び、南海岸にはメルボルンがあります。また東インドの島々に近く、ダーウィンや、その他注意すべき要地があります。シドニーは奥深い入江にのぞむ商工業の大中心地で、その南西約二百五十キロのカンベラには、總



シドニー

督がゐります。



ニュージーランドの雨と羊

二つの島ニュージーランド 南太平洋のいちばん南にあるニュージーランドは、北島・南島の二つから成り、全體の形が細長いこと、地震の多いこと、火山のあること、温泉のあること、風光の美しいこと、温帯にあることなど、日本とよく似たところだ。ただこの島々では、南に行くほど寒くなるのが日本と違ふ點です。

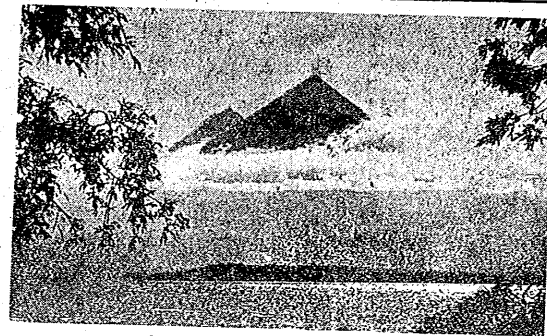
大きさは、本州と九州を合せたぐらいで、しかも人口はわづか百六十萬人に過ぎません。大部分は英國人ですが、もとの住民のマオリ族は

八萬ぐらゐるで、顔かたちや、ことばや、武をたつとぶ精神など、日本人と似てゐるところから、非常にわが國に親しみを持つてゐます。

小麥や羊は特に南島の東側に多く産し、北島には牛がたくさん飼はれてゐて、人口一人あたり、牛と羊の数は世界でもいちばん多いぐらゐです。乳牛も多く、良質のバターやチーズが作られ、羊毛とともに、ウエリントンやオークランドから積み出されます。

濠洲やニュージーランドの南は、はるか南極海へ續いてゐます。そこは、わが捕鯨船の活躍するところとして注意しなければなりません。

太平洋をめぐる地方と日本の將來 太平洋をめぐる大陸・島々のうち、わが本州やパプア島、さては南北アメリカなどでは、海岸に近く山々が三四千メートルの高さにそびえてゐます。さうして



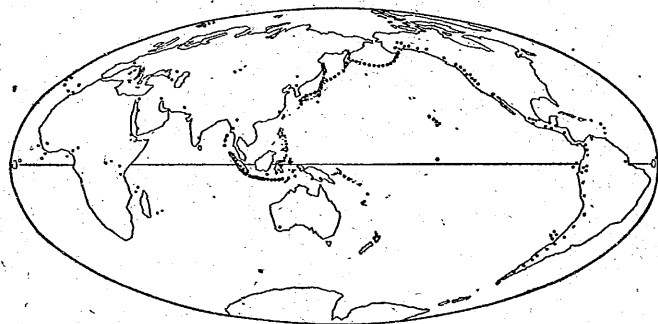
カム、チャッカの火山

それに沿ふやうに、海底には、ぐつと急に深いところが續き、時にはわが國の南東部にある日本海溝やフィリピンの東側にあるフィリピン海溝のやうに、一萬メートル以上の深さのところがあります。また、これらに關係のあるやうに、大陸のふちや、島々を縫ひながら、火山が續いてゐる。太平洋をめぐる島々、大陸は、まことに深いゆかりのあることを示してゐます。

北太平洋には、赤道附近から起り、日本の南東を洗ひながら、規則正しく流れる黒潮があつて、遠くその暖かな空氣を、北アメリカの北西岸へ運んでゐます。また一方ベーリング海や、オホーツ

ク海から、わが近海へ流れくだる寒流があります。南太平洋にも、これと似た流れ方の海流があつて、遠い昔からこれらの海流は、交通や漁業に利用されて來ました。

太平洋とアジア大陸の間には、夏と冬で向きの違つた風の吹くことは、東亞の各地で學んだことです。この季節風のほかに、太平洋中の貿易風や、時々起る颶風や、熱帶のスコールなどは、太平洋をめぐる地方や島々の人たちに、大きなえいきやうを與へてゐます。



世界の主な火山の分布

同じく太平洋の大自然に育てられ、はぐくまれた中にも、わが大日本は、神代の昔から海洋の國として存在し、いよいよ榮え、いよいよ發展して今日に至りました。海に親しんだわれらの祖先は、大八洲を始め、たくさん島の島々をりつぱに經營し續けて來ました。近世徳川氏の政策によつて、しばらく國をとざしてゐる間に、太平洋の島々との連絡が絶え、そのあひだ、歐米人は、日本に、近い島々までわがもの顔にふるまひましたが、今や再び太平洋は日本の力の前に、アジアの海として、その本來の姿をあらはし始めました。大東亞の住民の多くは、早くも日本の救ひのもとに新しい生活を始めてゐます。

太平洋とその島々、アジア大陸からインド洋へかけて、いつさいを含む大東亞——その中心こそ、まさしくわが日出づる國日本なのです。いや榮えに榮えゆく、この大和島根に生をうけたわれら一億は、はらからは、今こそ大御心のまにまに、祖先に恥ぢない大東亞建設の偉業を打ち立てて、世界永久の平和、萬邦協和の喜びを、よるづの民にわかり與へなければなりません。

K130.121-56-2

昭和十八年二月廿五日 印刷
昭和十八年二月廿七日 發行

(非賣品)

本卷挿入ノ寫眞地圖ハ昭和十八年二月十二日陸軍省ト海軍省ト協議済

著作權所有 文部省

著作兼
發行者

東京市下谷區二長町一番地
凸版印刷株式會社

印刷者 井上源之丞

東京市下谷區二長町一番地

印刷所 凸版印刷株式會社

1953.12 編入

